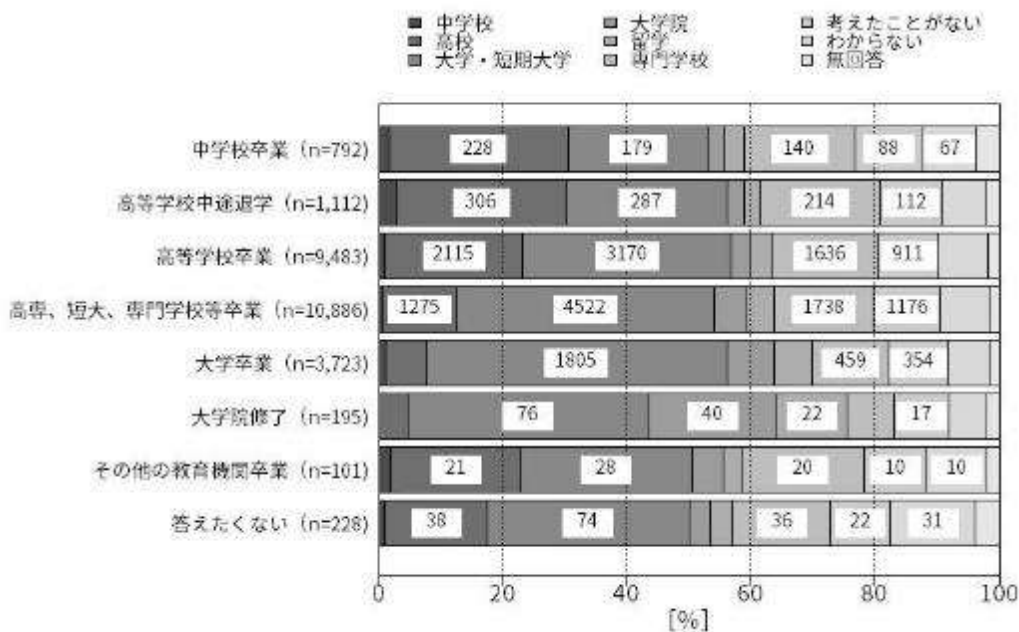


母親の最終学歴別に見た、希望する進学先（保護者票 問8 × 子ども票 問27）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

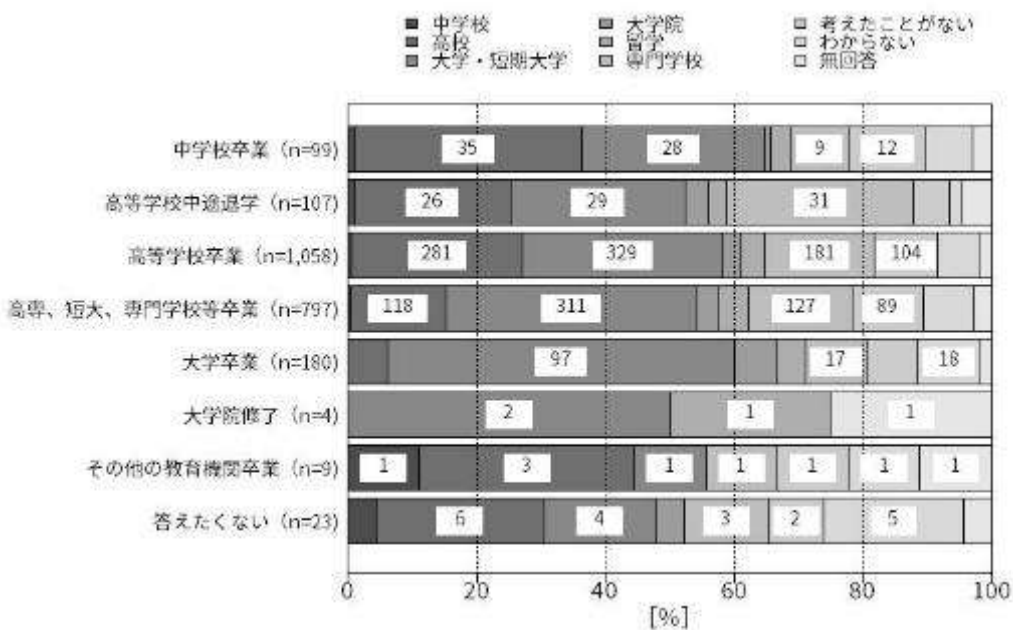
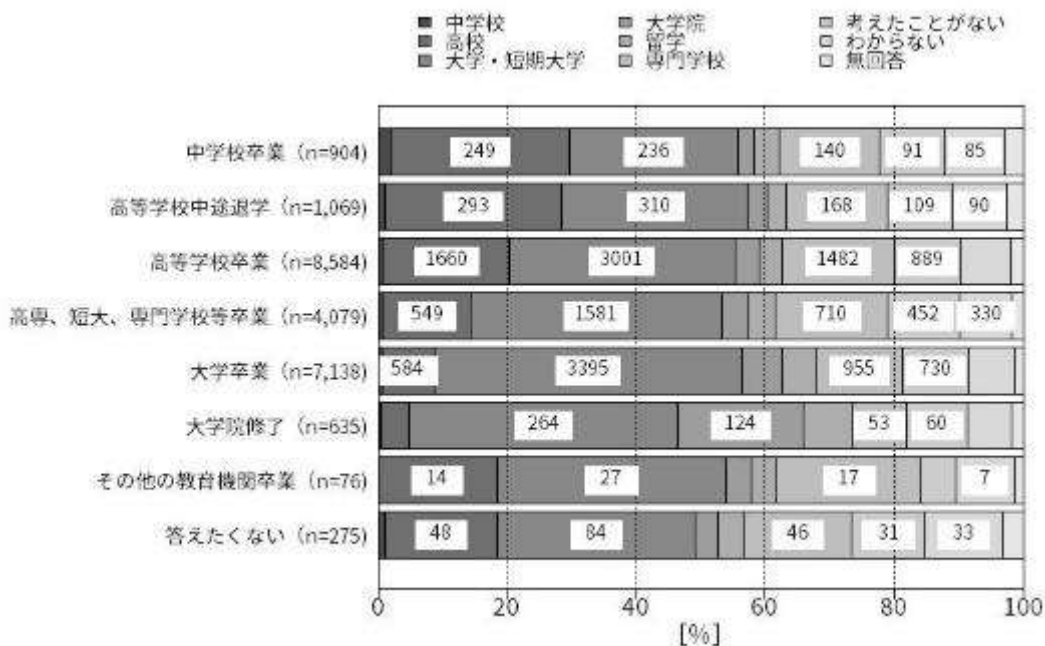


図 213. 母親の最終学歴別に見た、希望する進学先

母親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、母親が中卒または高校中退者では、「中学校」または「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている傾向にある。

父親の最終学歴別に見た、希望する進学先（保護者票 問8 × 子ども票 問27）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

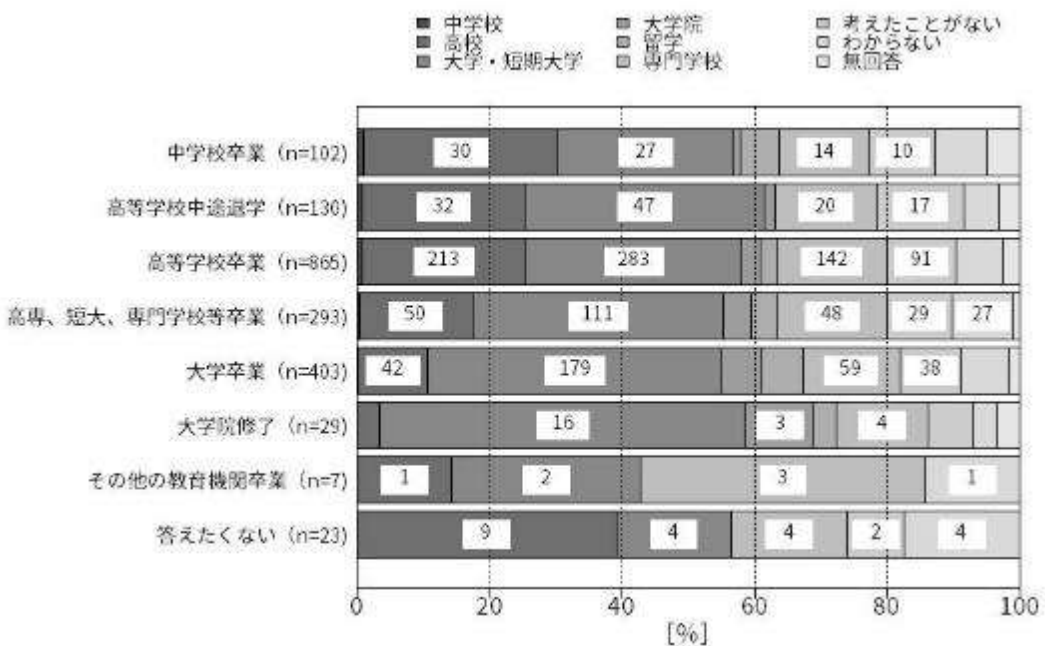
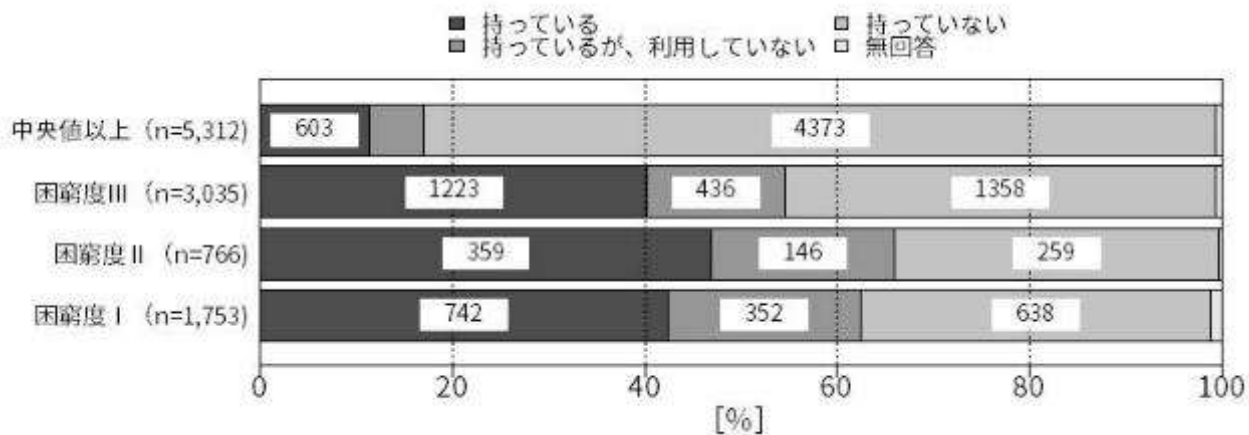


図 214. 父親の最終学歴別に見た、希望する進学先

父親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、父親が中卒または高校中退者では、「中学校」または「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている傾向にある。

困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況（保護者票 問 18）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

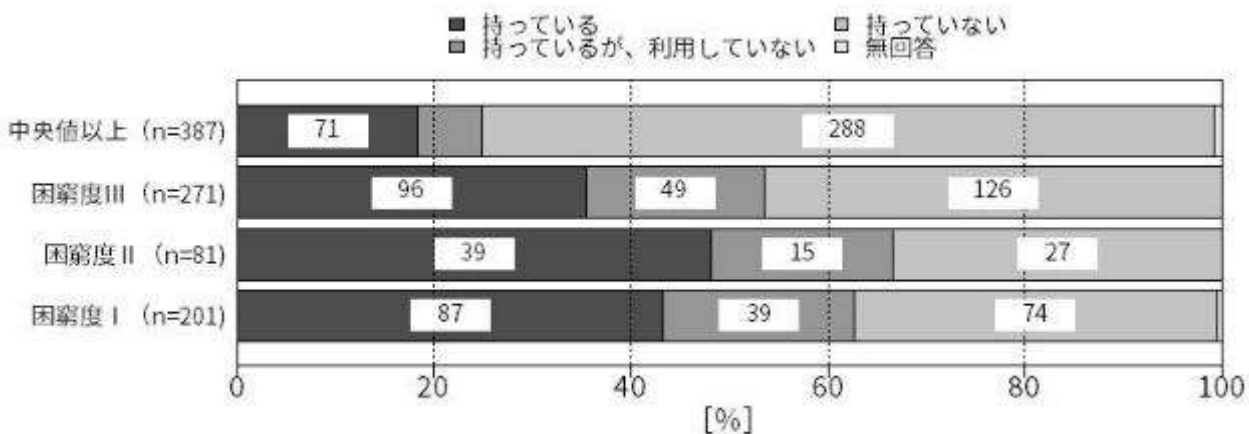
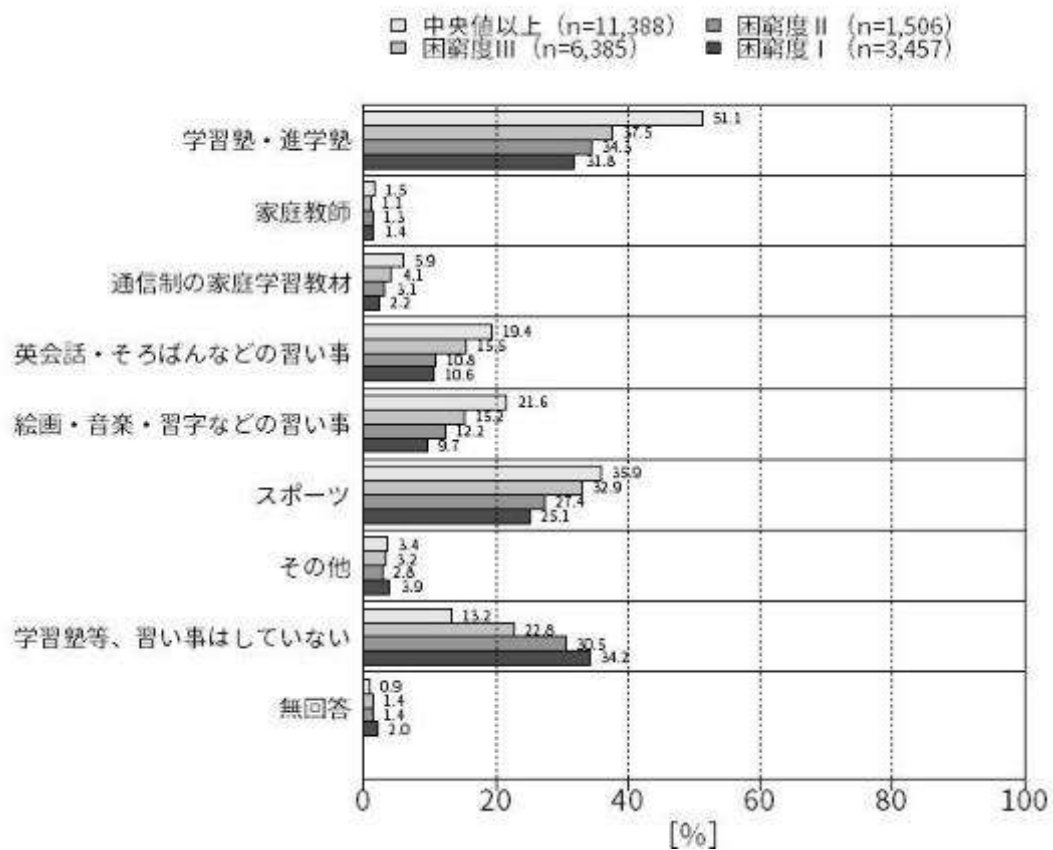


図 215. 困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況

困窮度Ⅰ群では、塾代助成カードを「持っている」が43.3%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では48.1%、困窮度Ⅲ群では35.4%であった。

困窮度別に見た、学習塾等の利用状況（子ども票 問15）

<大阪市 24 区>



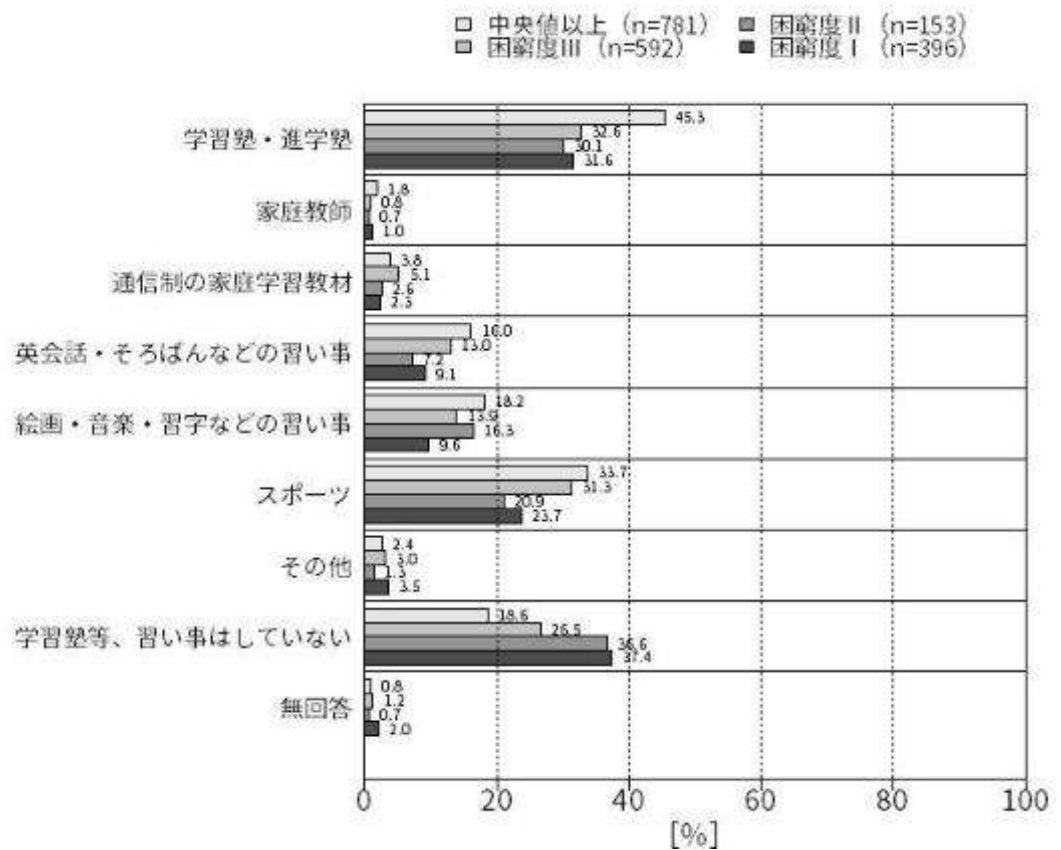
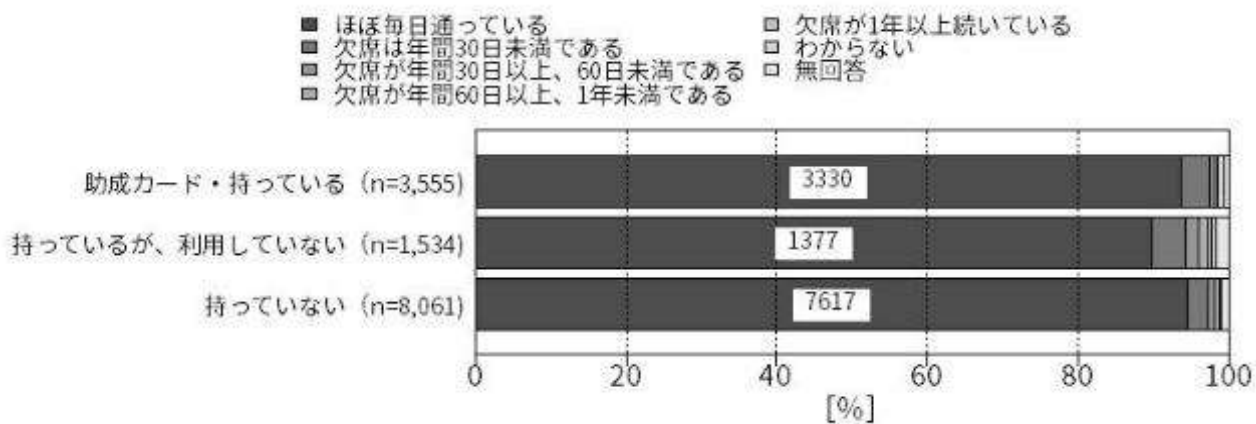


図 216. 困窮度別に見た、学習塾等の利用状況

困窮度Ⅰ群では、「学習塾・進学塾」に通っていると回答した割合が31.6%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では30.1%、困窮度Ⅲ群では32.6%であった。「学習塾等、習い事はしていない」と回答したのは、中央値以上群では18.6%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では37.4%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、通学状況（保護者票 問 18 × 保護者票 問 21）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

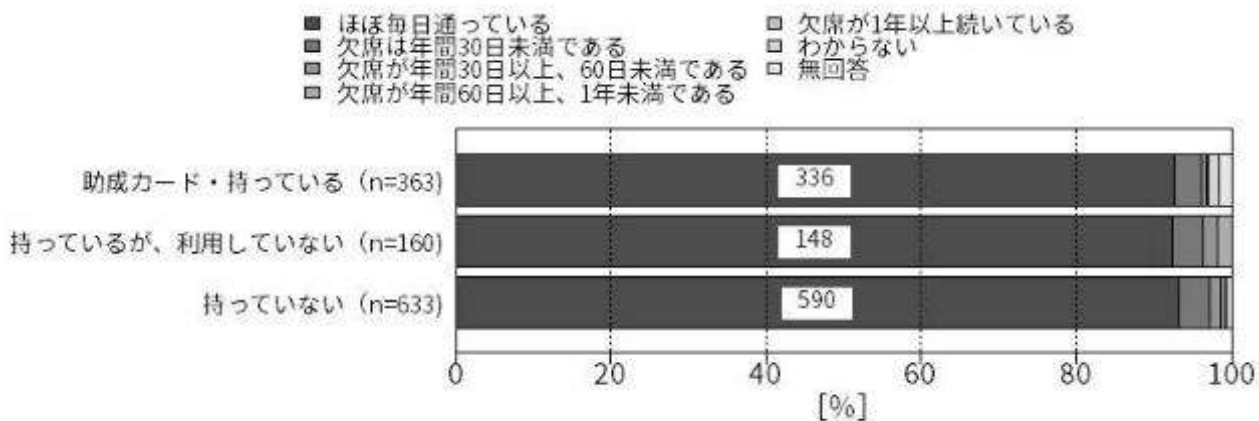
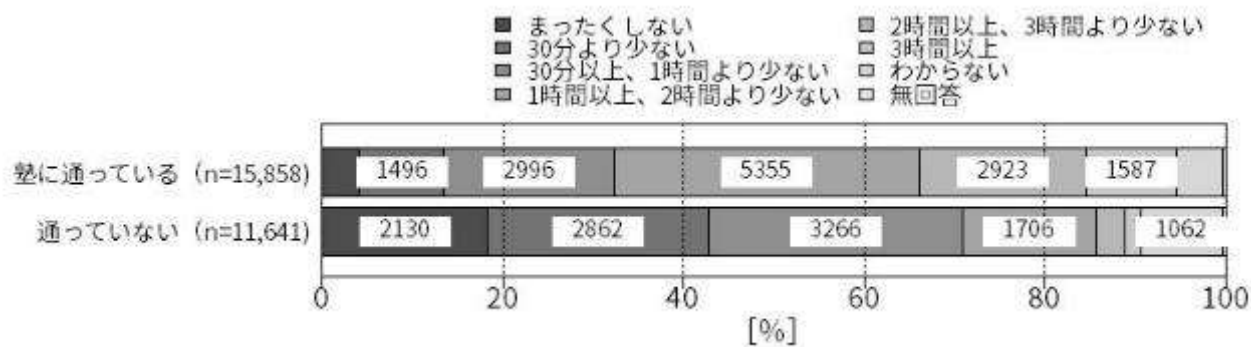


図 217. 塾代助成カードの所持状況別に見た、通学状況

塾代助成カードを持っていない人は、子どもが学校に「ほぼ毎日通っている」と回答した割合が 93.2%であったのに対し、持っているが利用していない人が 92.5%、持っている人が 92.6%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票 問 15 × 子ども票 問 14）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

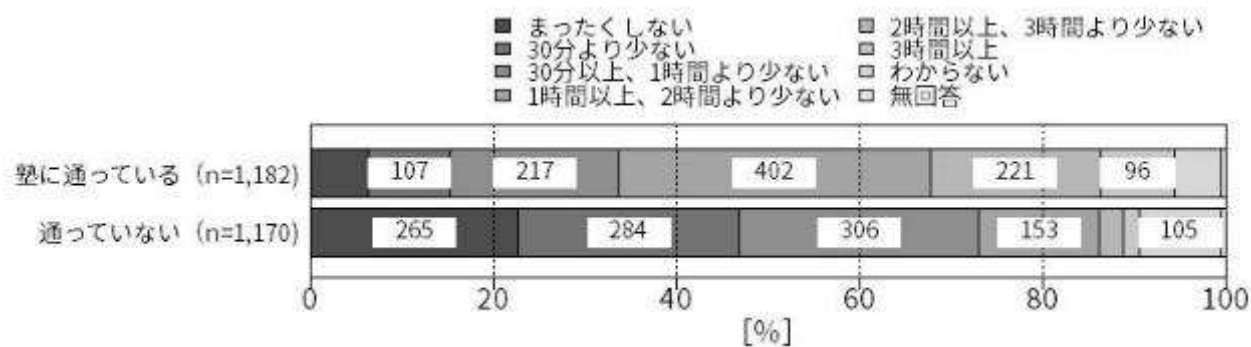
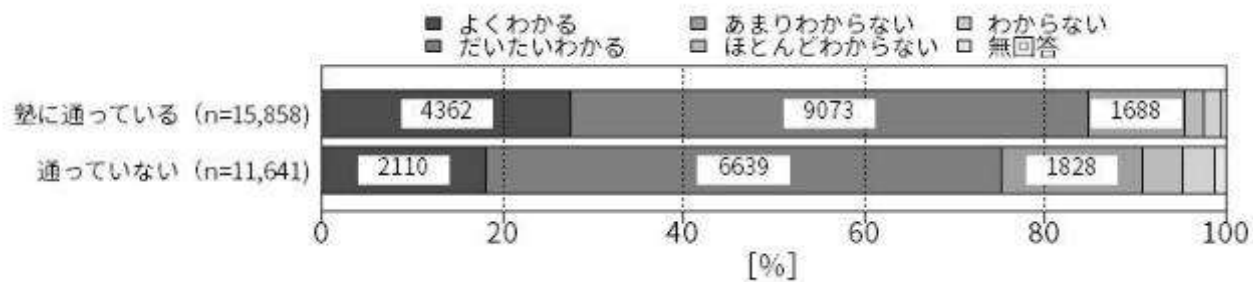


図 218. 学習塾等の利用状況別に見た、授業以外の勉強時間

勉強を中心とした塾に通っていない人は、授業時間以外に勉強を「まったくしない」が22.6%であったのに対し、塾に通っている人は6.3%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、学習理解度（子ども票 問15 × 子ども票 問18）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

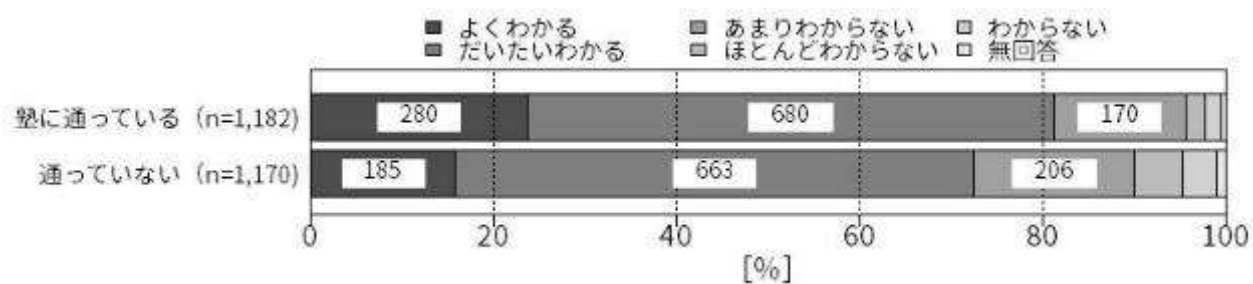
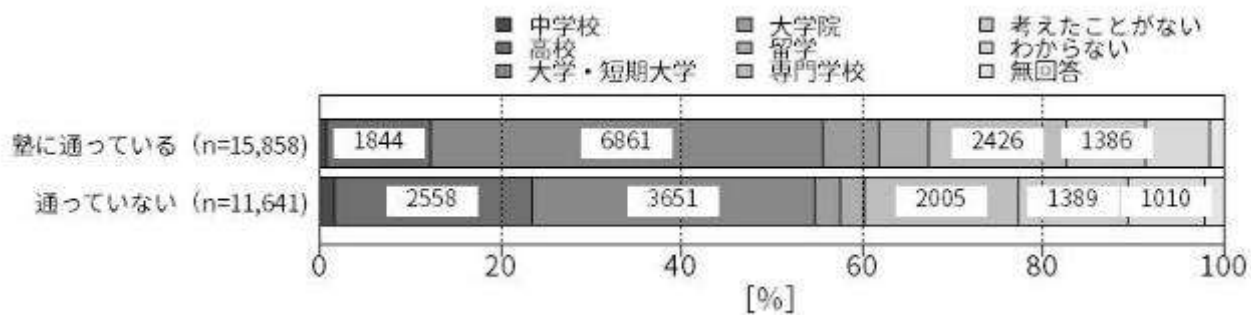


図 219. 学習塾等の利用状況別に見た、学習理解度

勉強を中心とした塾に通っていない人は、学校の勉強が「よくわかる」と答えた割合が15.8%であったのに対し、塾に通っている人は23.7%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、希望する進学先（子ども票 問15 × 子ども票 問27）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

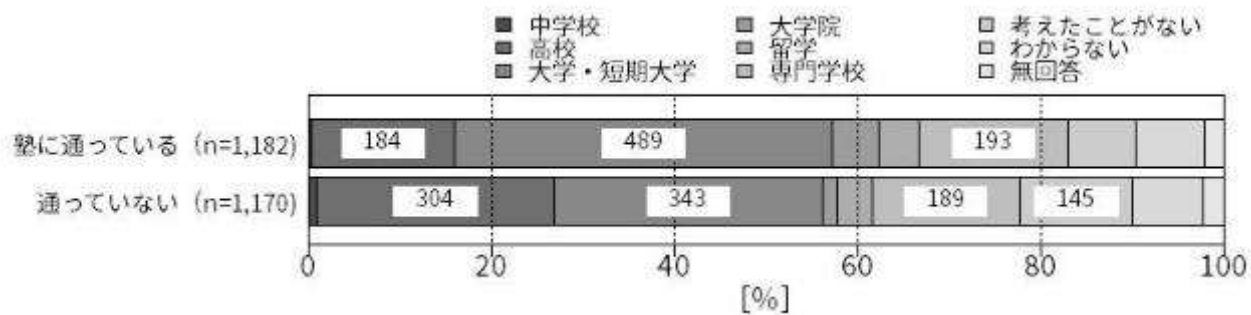


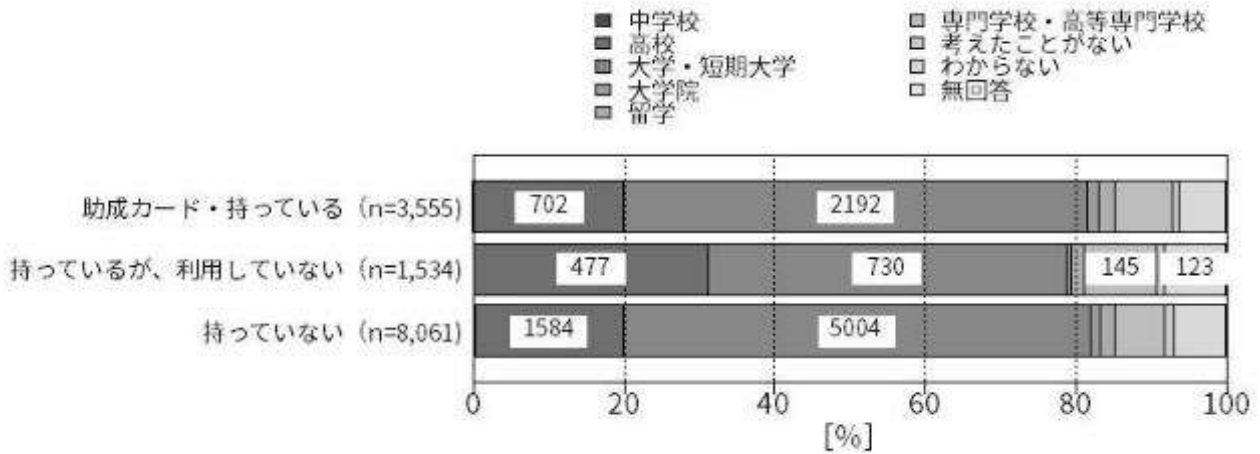
図 220. 学習塾等の利用状況別に見た、希望する進学先

勉強を中心とした塾に通っていない人は、「大学・短期大学」まで行きたいと答えた割合が 29.3%であったのに対し、塾に通っている人は 41.4%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、希望する進学先

(保護者票 問 18 × 保護者票 問 15)

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

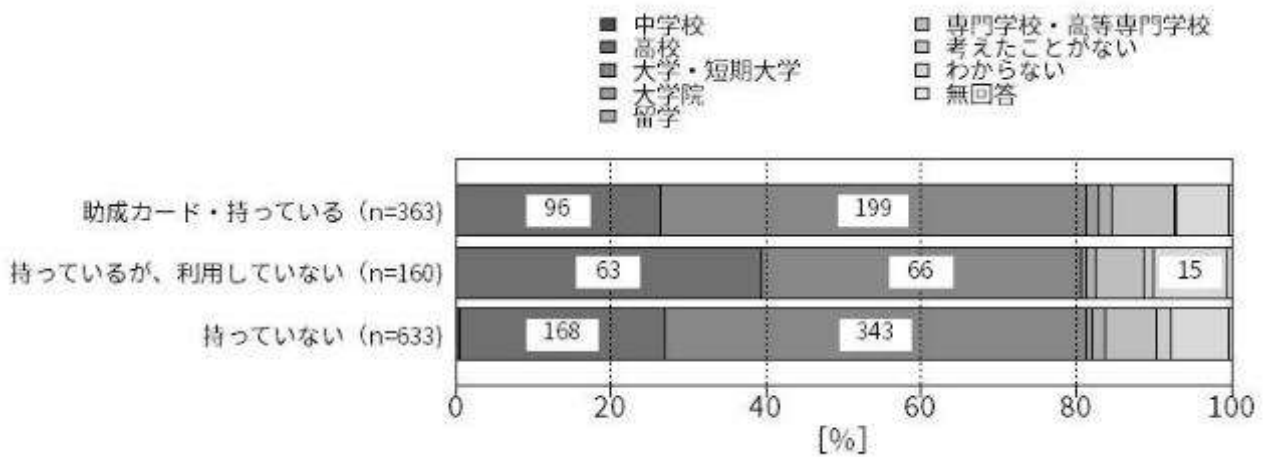


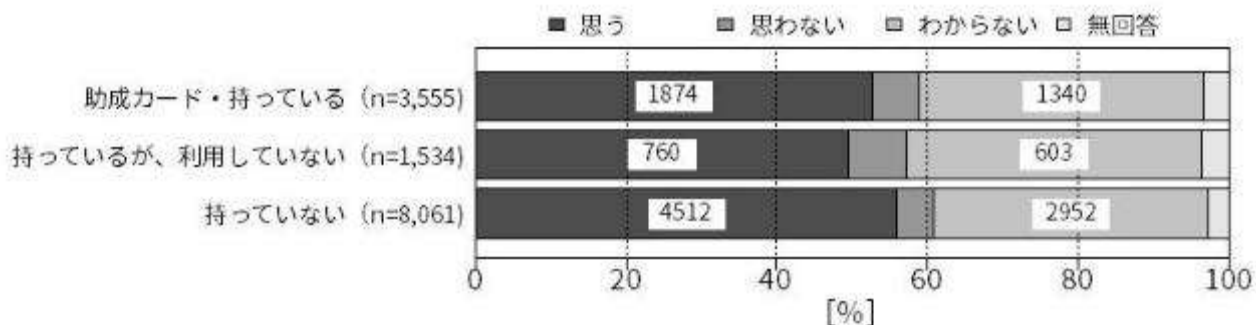
図 221. 塾代助成カードの所持状況別に見た、希望する進学先

塾代助成カードを持っていない人は、子どもの進学先について「大学・短期大学」まで希望すると回答した割合が 54.2%であったのに対し、持っているが利用していない人が 41.3%、持っている人が 54.8%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、子どもの進学達成予測

(保護者票 問 18 × 保護者票 問 16)

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

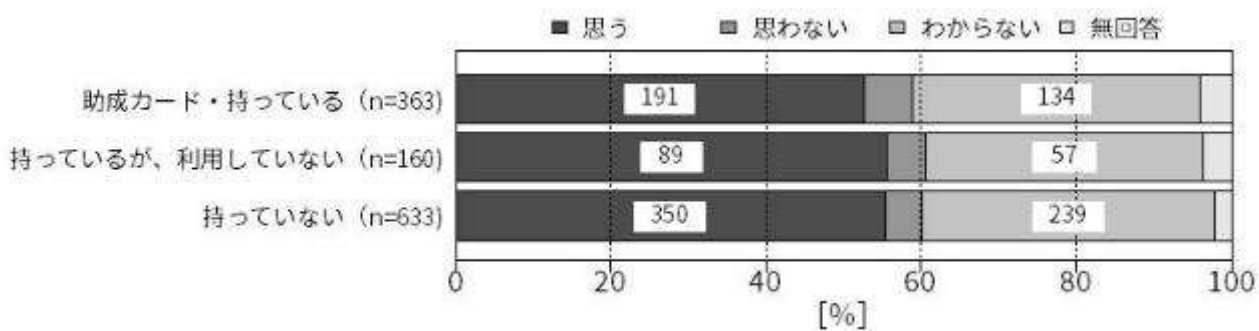
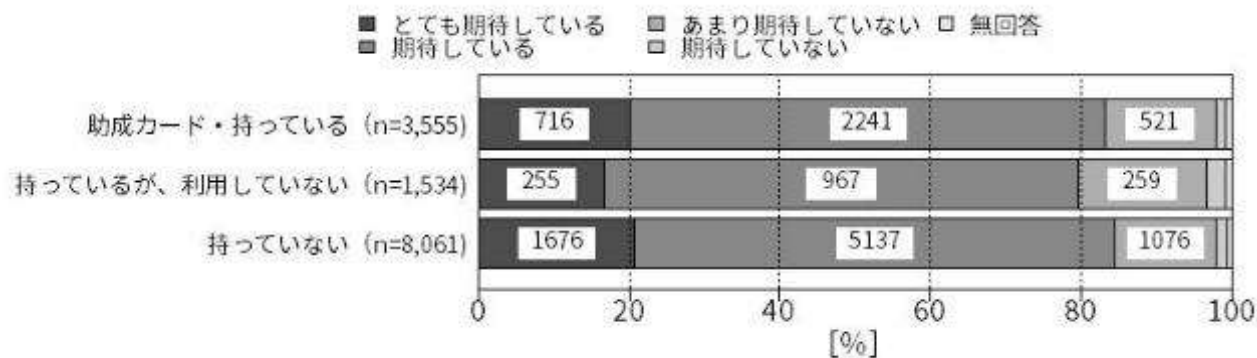


図 222. 塾代助成カードの所持状況別に見た、子どもの進学達成予測

塾助成カードを持っていない人は、子どもが希望どおりの学校まで進むと思うと回答した割合が 55.3%であったのに対し、持っているが利用していない人が 55.6%、持っている人が 52.6%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
 （保護者票 問 18 × 保護者票 問 14(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

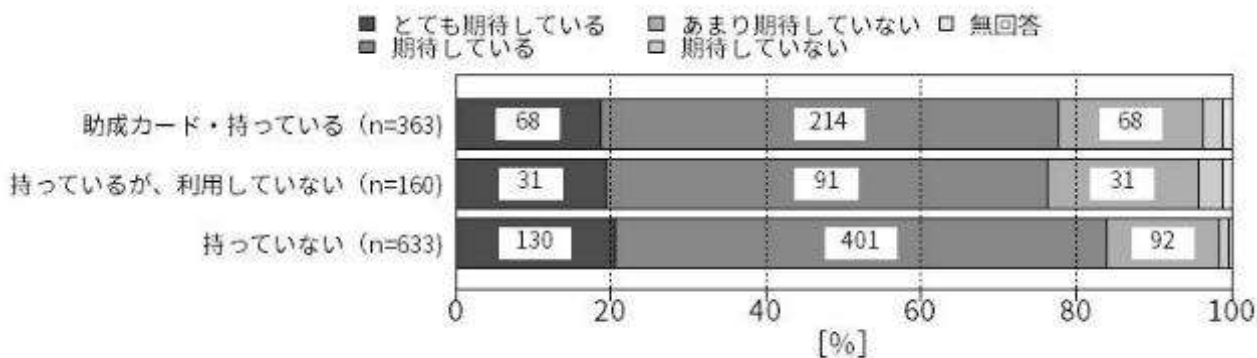


図 223. 塾代助成カードの所持状況別に見た、保護者と子どもの関わり
 （子どもへの将来の期待）

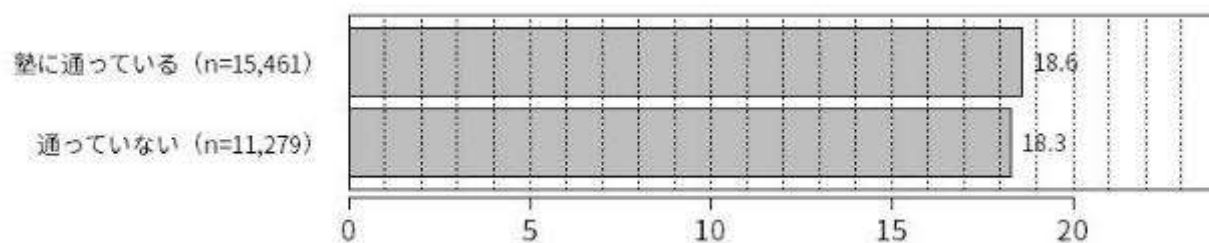
塾代助成カードを持っていない人は、子どもの将来を「とても期待している」と回答した割合が 20.5%であったのに対し、持っているが利用していない人が 19.4%、持っている人が 18.7%であった。「とても期待している」「期待している」をあわせた割合は持っていない群で高く、8割を超えていた。

学習塾等の利用状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 15 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

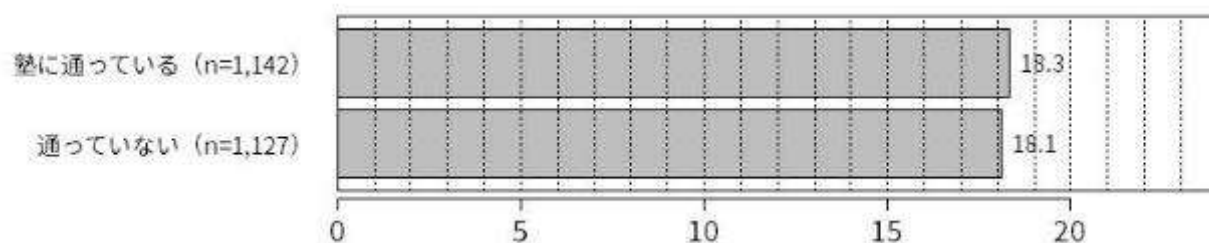
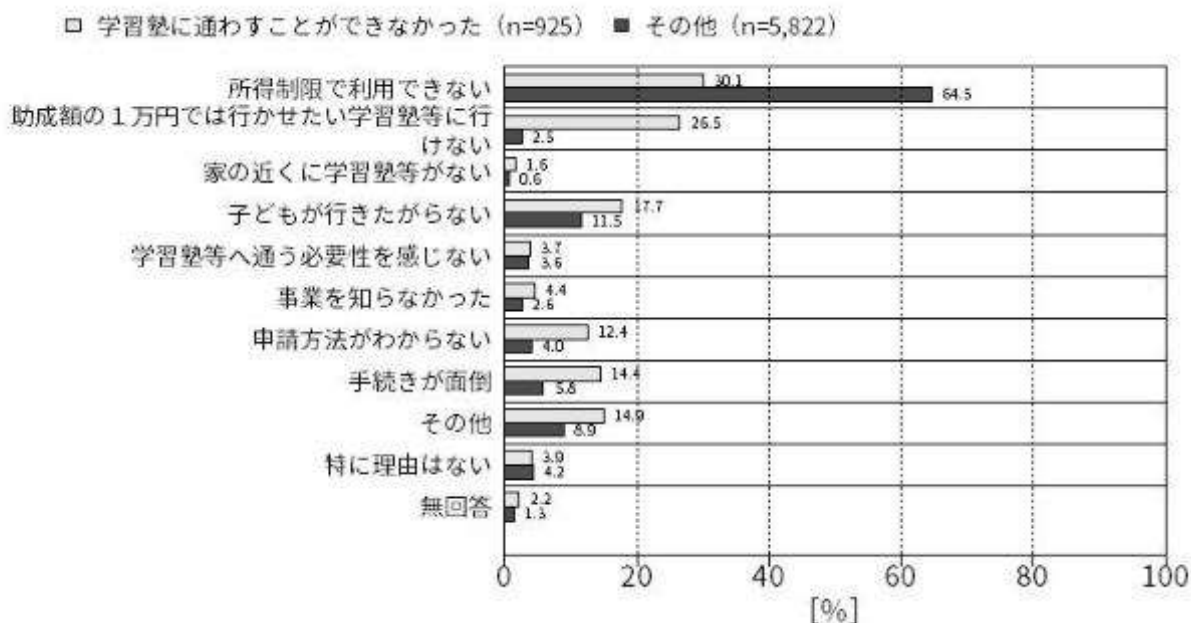


図 224. 学習塾等の利用状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

勉強を中心とした塾に通っていない人は、自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均点が 18.1 点であったのに対し、塾に通っている人は 18.3 点と、大きな差は見られなかった。

経済的な理由で学習塾に通わすことができなかつたかどうかと、塾代助成カードを持っていない理由
 (保護者票 問 13 の 9 × 保護者票 問 20)

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

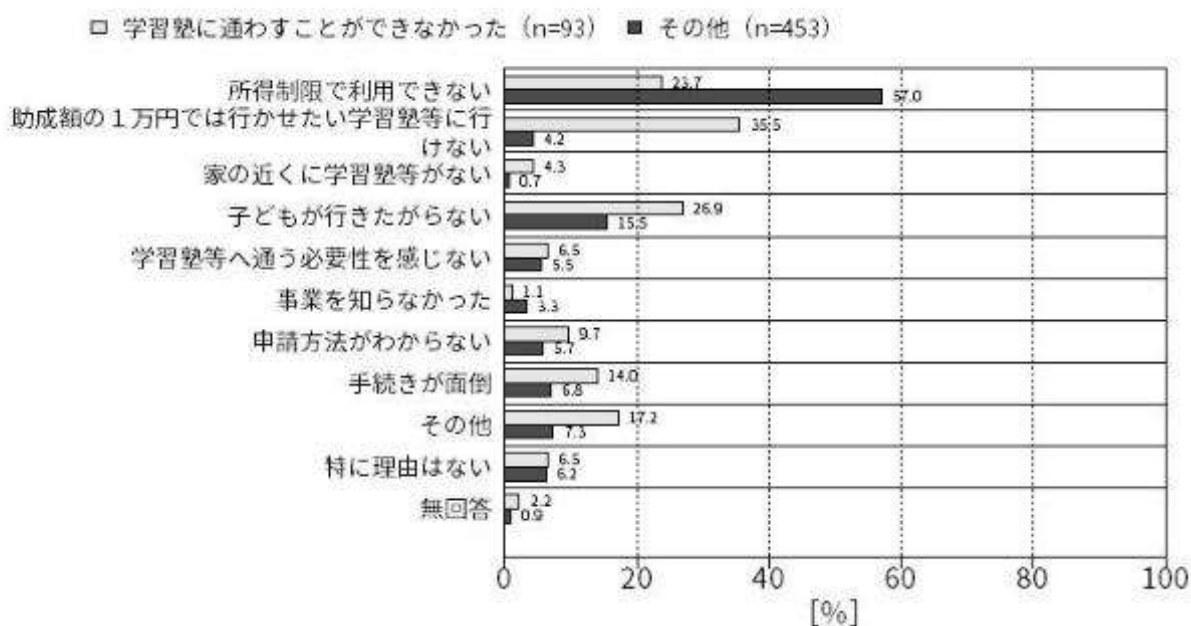
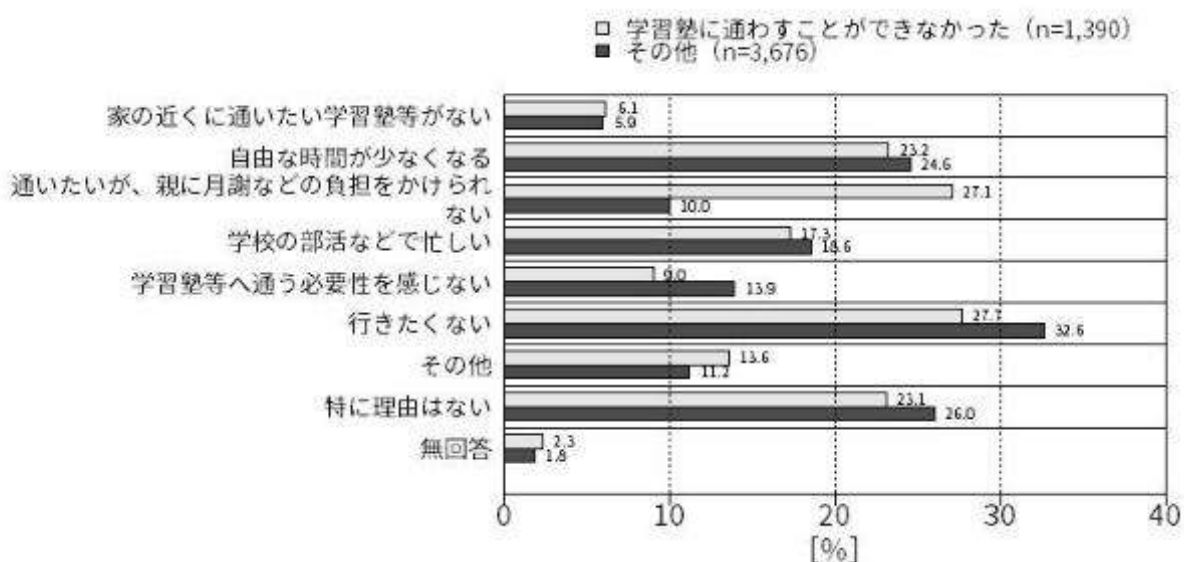


図 225. 経済的な理由で学習塾に通わすことができなかつたかどうかと、塾代助成カードを持っていない理由

塾へ通わせられなかつた人は、「助成額の1万円では行かせたい学習塾等に行けない」という理由で塾代助成カードを持っていない人が35.5%と多かつた。また、「申請方法がわからない」「手続きが面倒」という回答も見られた。

経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、学習塾等に通っていない理由（保護者票 問13の9 × 子ども票 問17）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

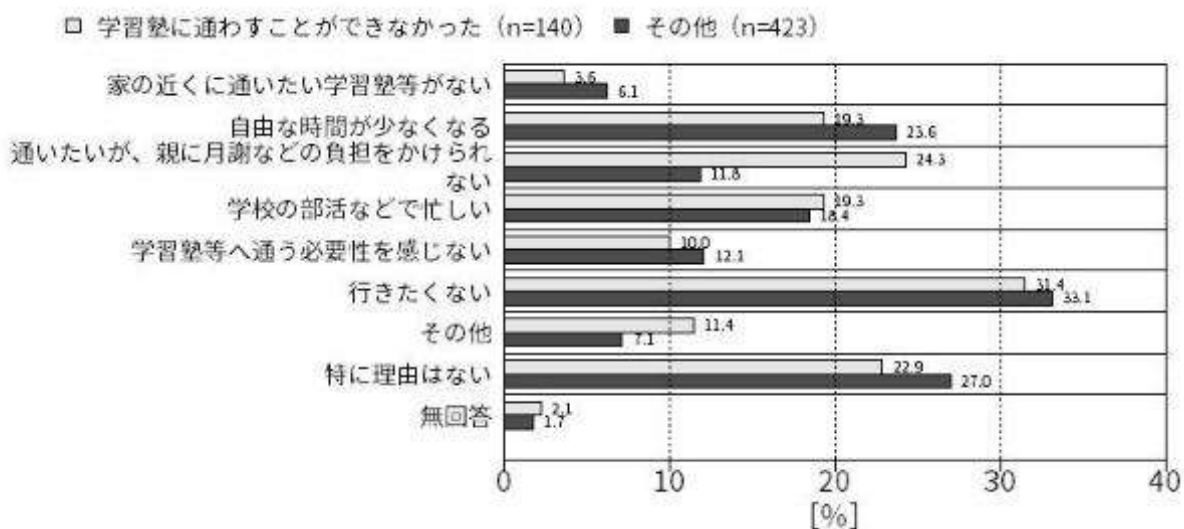


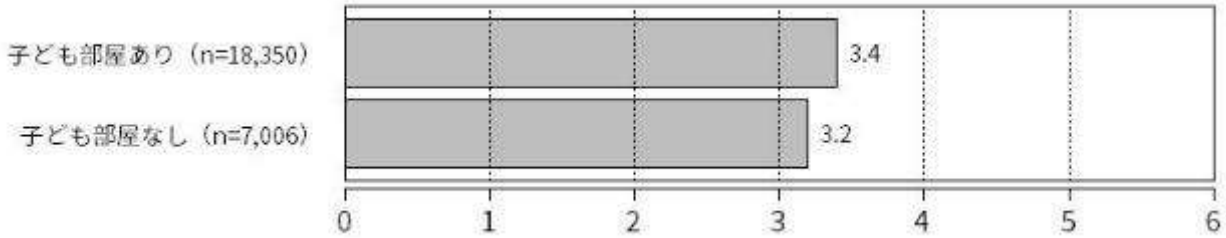
図 226. 経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、学習塾等に通っていない理由

塾へ通わせられなかった人は、「行きたくない」という理由が31.4%と多かった。また、「通いたい、親に月謝などの負担をかけられない」という回答はその他群に比べ差が大きかった。

子ども部屋の有無別に見た、勉強時間の平均値（子ども票 問 25 の 3 × 子ども票 問 14）

※勉強時間について、「1. まったくしない」「2. 30分より少ない」「3. 30分以上、1時間より少ない」「4. 1時間以上、2時間より少ない」「5. 2時間以上、3時間より少ない」「6. 3時間以上」の6つの時間枠からひとつを選択させた（「7. わからない」は除く）。項目番号を勉強時間の得点とみなし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表す。

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

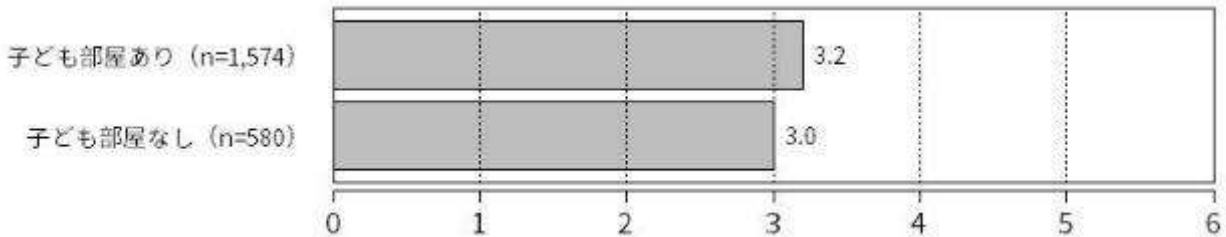
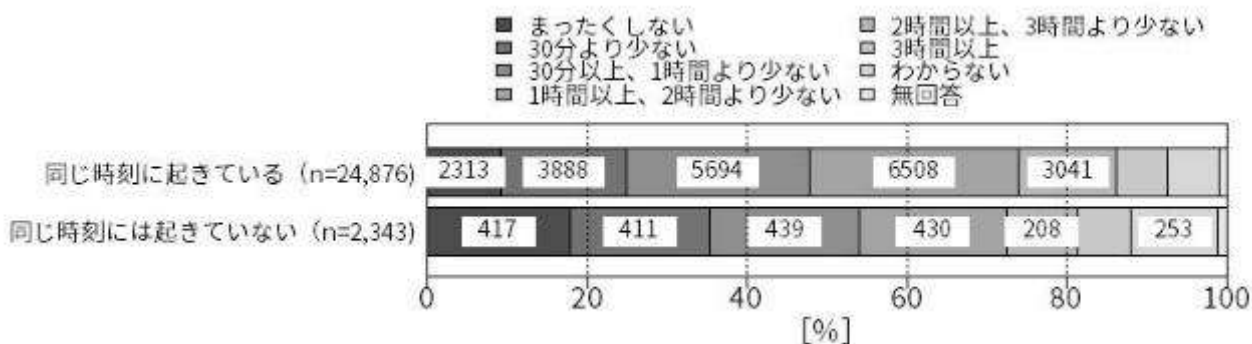


図 227. 子ども部屋の有無別に見た、勉強時間の平均値

子ども部屋がある場合は 3.2 時間、子ども部屋がない場合は 3.0 時間であった。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票 問2 × 子ども票 問14）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

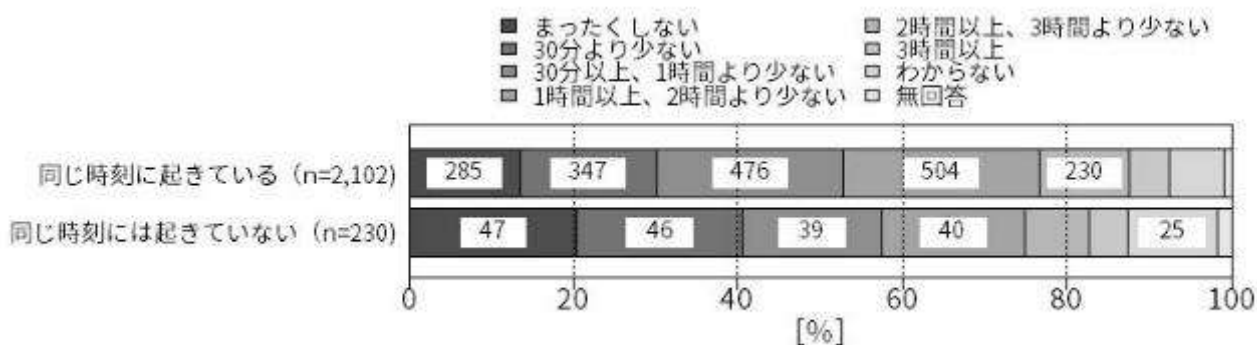


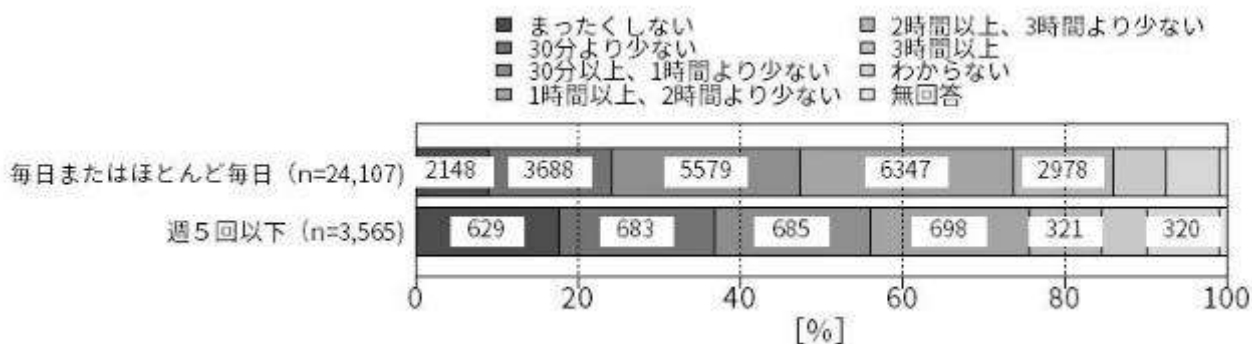
図 228. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の勉強時間

ここでは、子ども票問2において「起きている」「どちらかと言えば、起きている」と回答した子どもを「同じ時刻に起きている」、「あまり、起きていない」「起きていない」と回答した子どもを「同じ時刻には起きていない」としている。

起床時間の規則性別に授業以外の勉強時間を見ると、「同じ時刻に起きている」子どもの方が、「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」、「2時間以上、3時間より少ない」と回答した人の割合が高い。「同じ時刻には起きていない」子どもでは、「まったくしない」と回答した人は20.4%となっている。

朝食の頻度別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票 問5(1) × 子ども票 問14)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

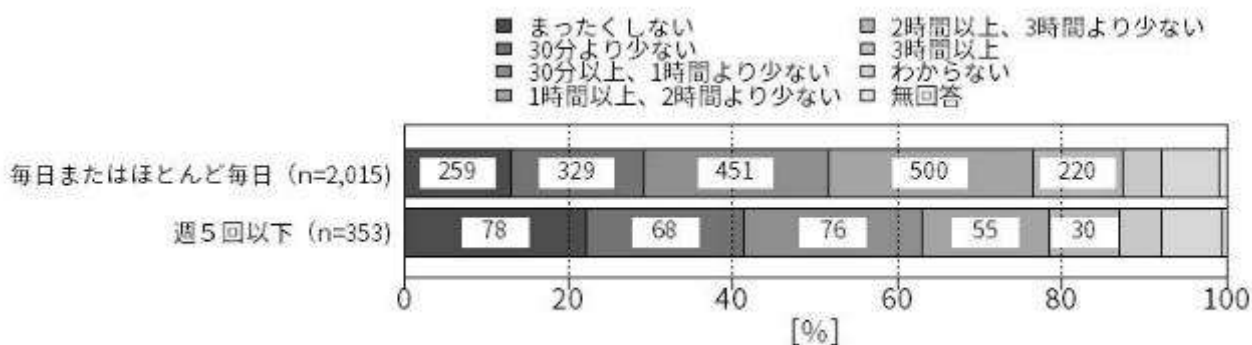


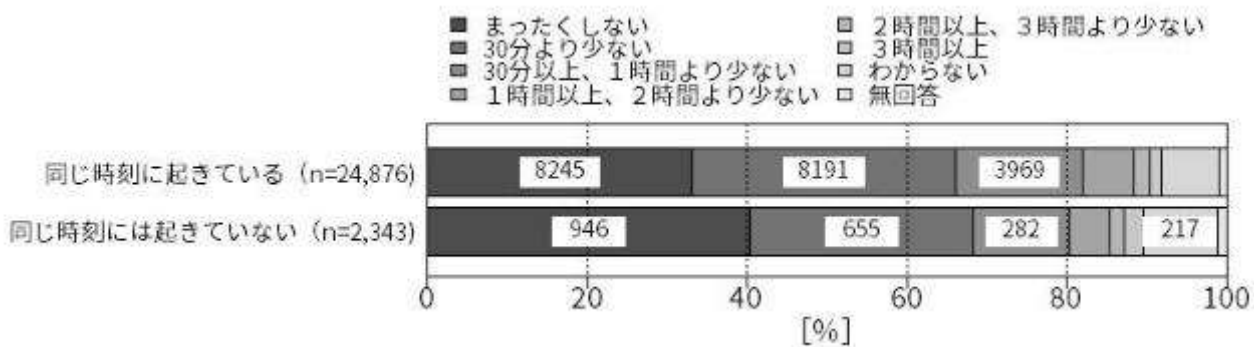
図 229. 朝食の頻度別に見た、授業以外の勉強時間

ここでは、子ども票問5において「毎日またはほとんど毎日」と回答した子どもを「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週5回以下」としている。

朝食の頻度別に授業以外の勉強時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「まったくしない」と回答したのは16.3%であった。また、同じく「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「1時間以上、2時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した子どもはそれぞれ24.8%、10.9%であった。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間（子ども票 問2 × 子ども票 問19）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

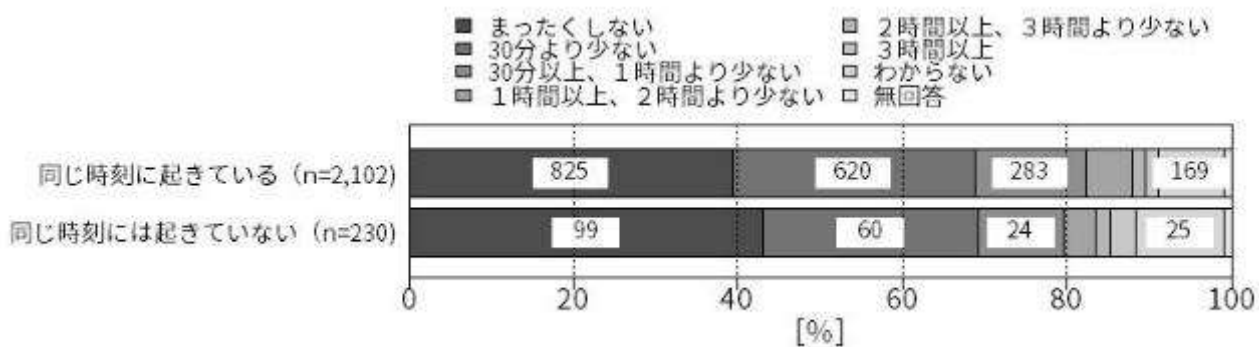
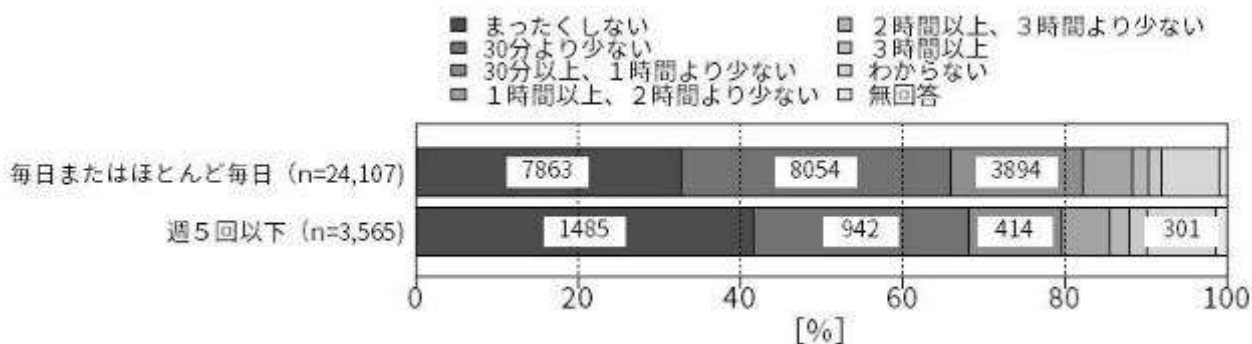


図 230. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、「同じ時刻には起きていない」子どもでは、「まったくしない」と回答した人は43%である。

朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票 問5(1) × 子ども票 問19)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

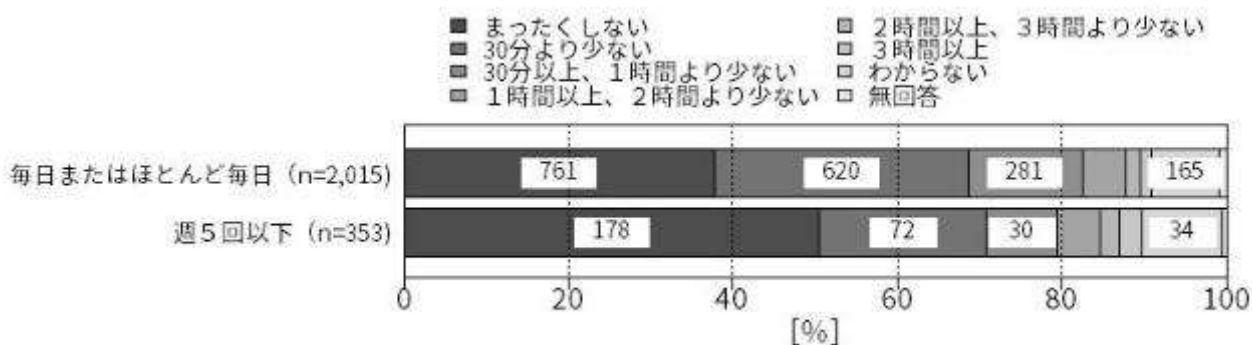


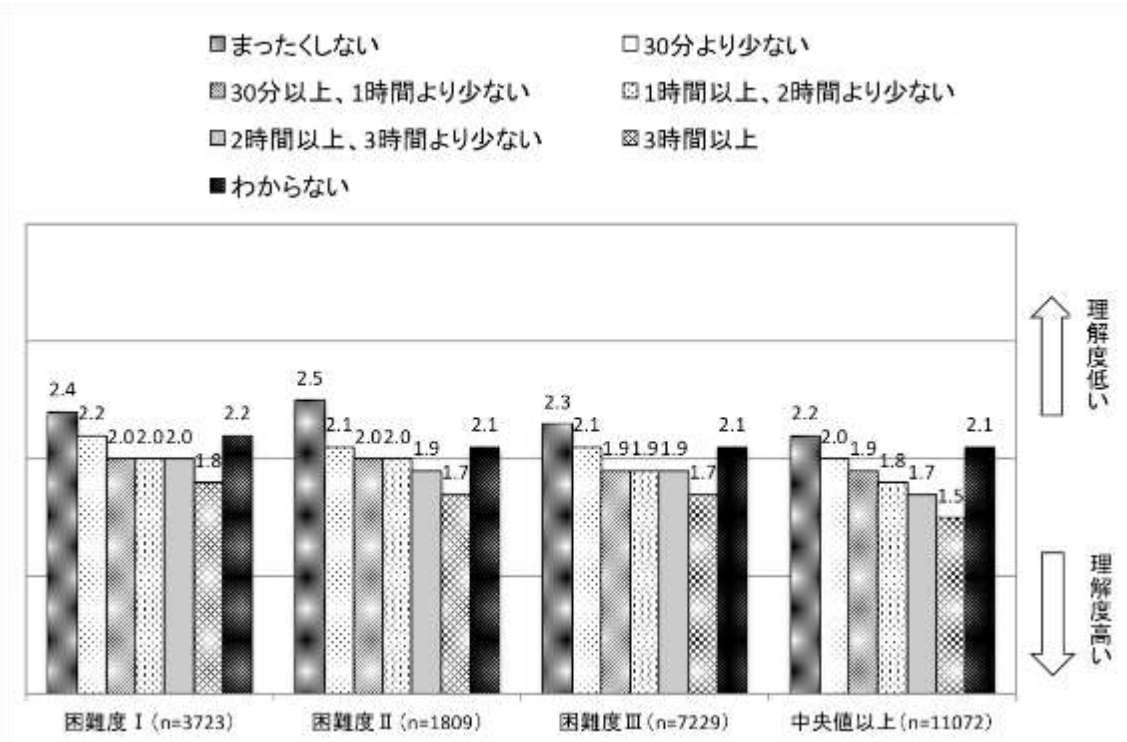
図 231. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「まったくしない」と回答したのは30.8%であった。また、同じく「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「30分以上、1時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」と回答した子どもはそれぞれ13.9%、5.4%であった。

困窮度別に見た、授業以外の勉強時間と学習理解度の関連（子ども票 問18）

※学習理解度について、「1. よくわかる」～「4. ほとんどわからない」まで4項目で評定させた。数値が低いほど、学習理解度が高いことを表す。

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

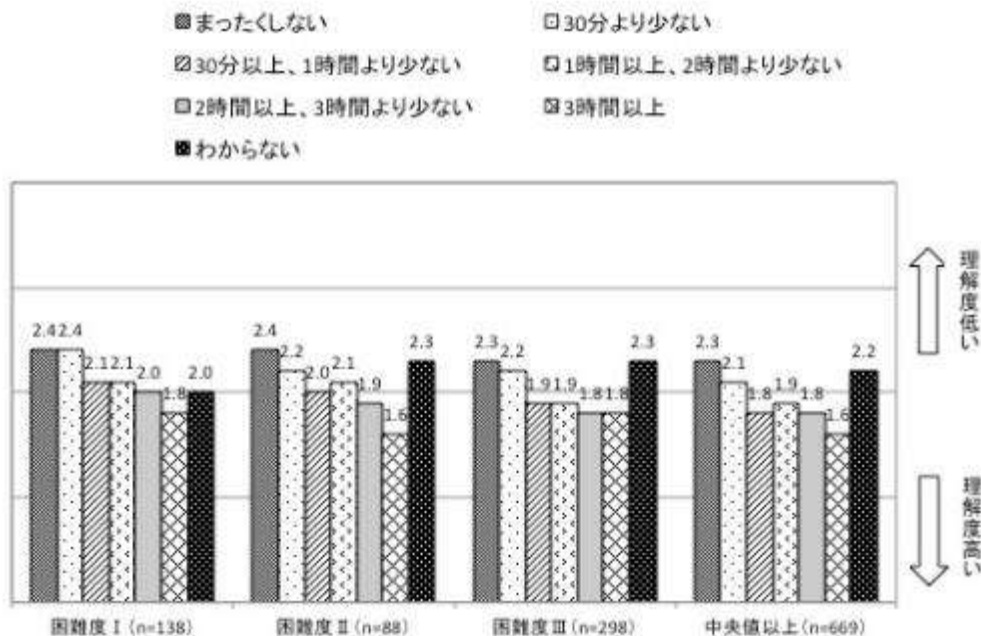


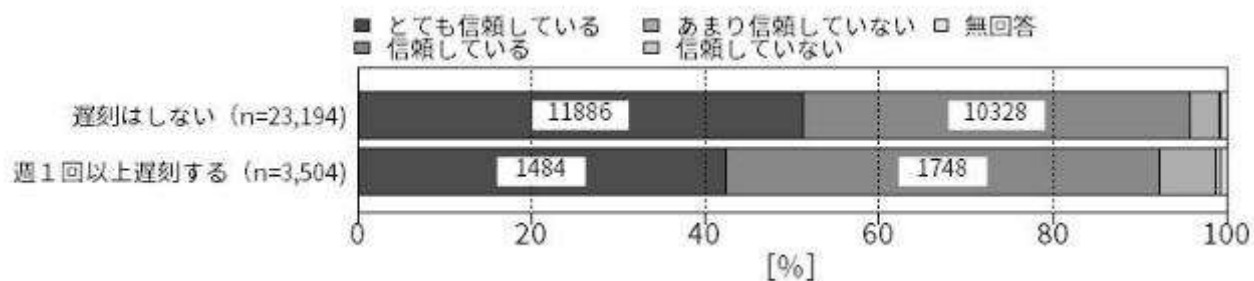
図 232. 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間と学習理解度の関連

どの困窮度においても、勉強の理解度が低いほど勉強時間が短かった。また、同じ勉強時間であっても、困窮度が高まるにつれて理解度が低くなる傾向にあった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

（子ども票 問9 × 保護者票 問14(1)）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

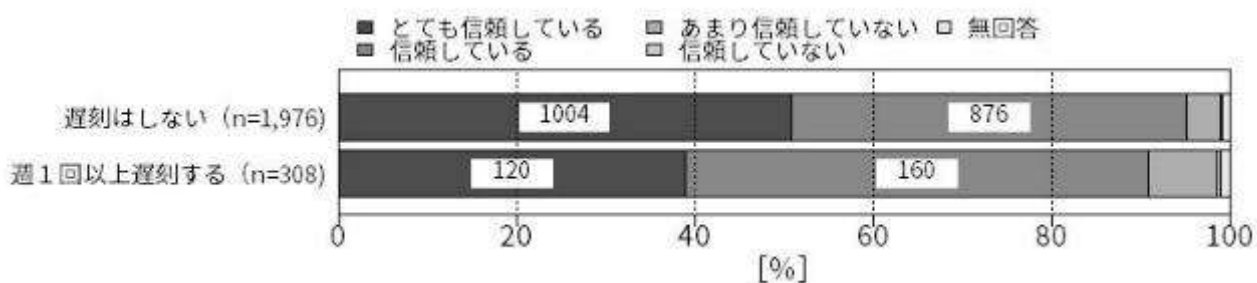


図 233. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

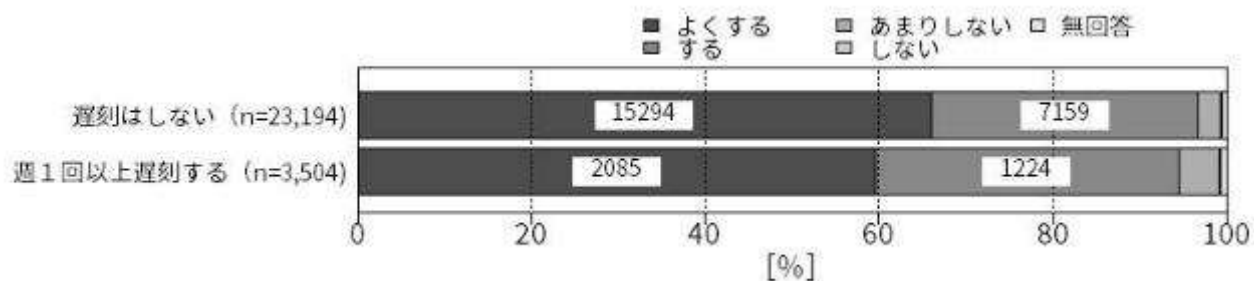
ここでは、子ども票問9において「遅刻はしない」と回答した子どもを「遅刻はしない」、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週1回以上遅刻する」としている。

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は「ととても信頼している」割合が50.8%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

（子ども票 問 9 × 保護者票 問 14(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

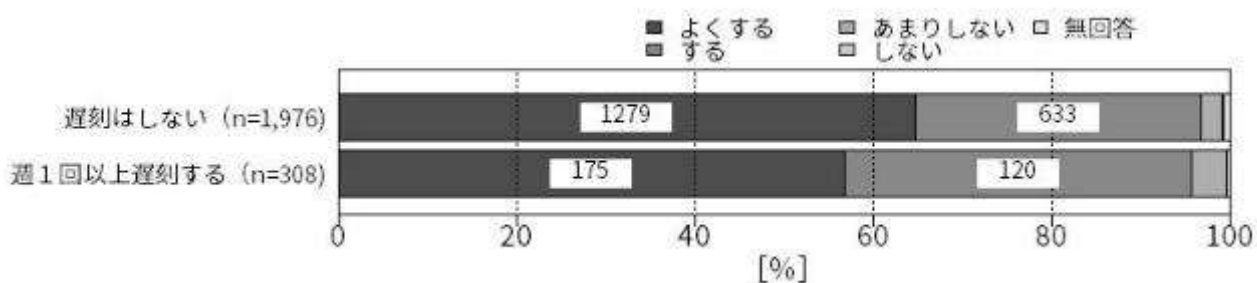


図 234. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

ここでは、子ども票問9において「遅刻はしない」と回答した子どもを「遅刻はしない」、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週1回以上遅刻する」としている。

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は会話を「よくする」割合が64.7%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））
 （子ども票 問9 × 保護者票 問14(3)）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

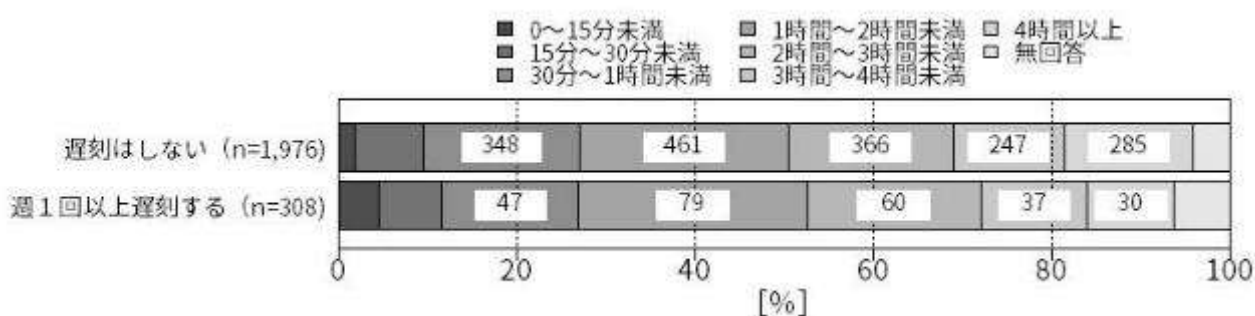
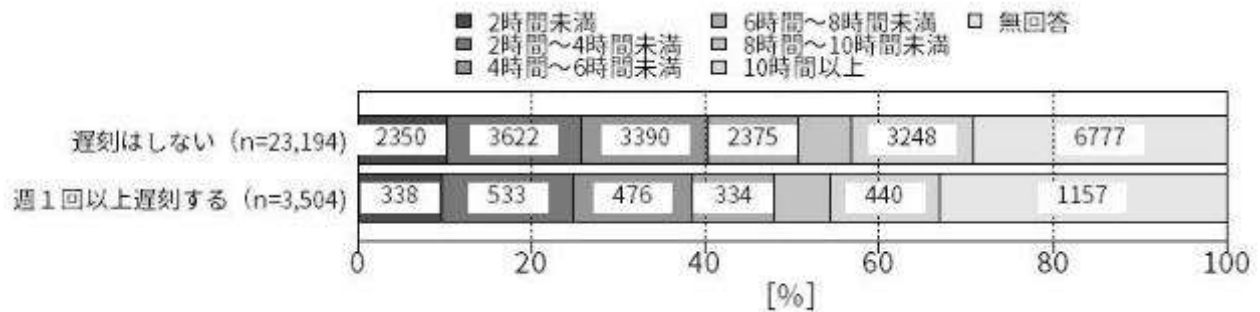


図 235. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
 （子どもと一緒にいる時間（平日））

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者との関わりは「4時間以上」「30分～1時間未満」の割合がそれぞれ14.4%、17.6%であった。「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、「1時間～2時間未満」「0～15分未満」の割合がそれぞれ25.6%、4.5%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））
 （子ども票 問9 × 保護者票 問14(3)）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

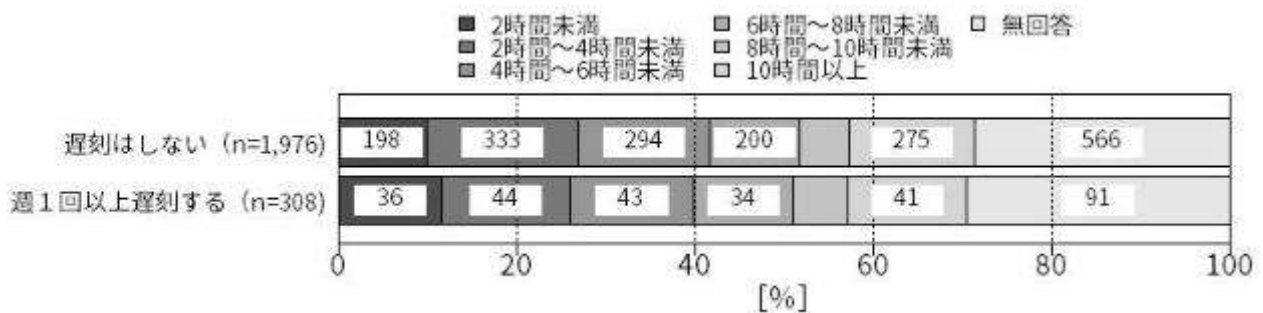


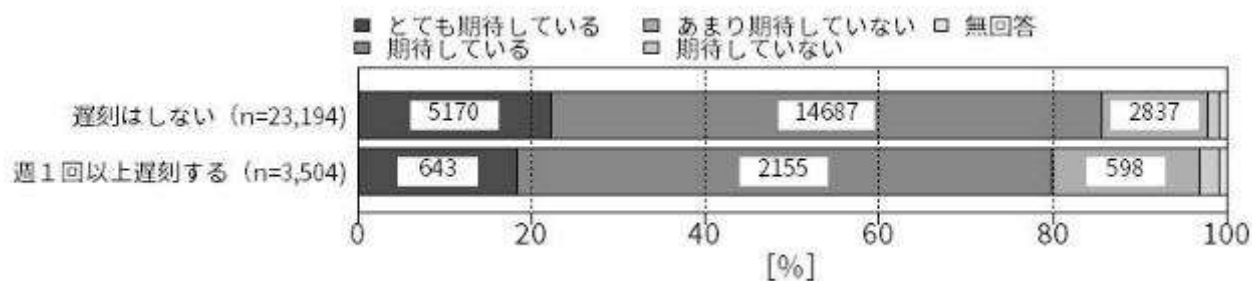
図 236. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
 （子どもと一緒にいる時間（休日））

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者との関わりは「2時間未満」「2時間～4時間未満」「4時間～6時間未満」の割合は、それぞれ10.0%、16.9%、14.9%であった。「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、「2時間未満」「2時間～4時間未満」「4時間～6時間未満」の割合は、それぞれ11.7%、14.3%、14.0%であった。また、いずれも無回答の割合が高い。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

（子ども票 問9 × 保護者票 問14(4)）

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

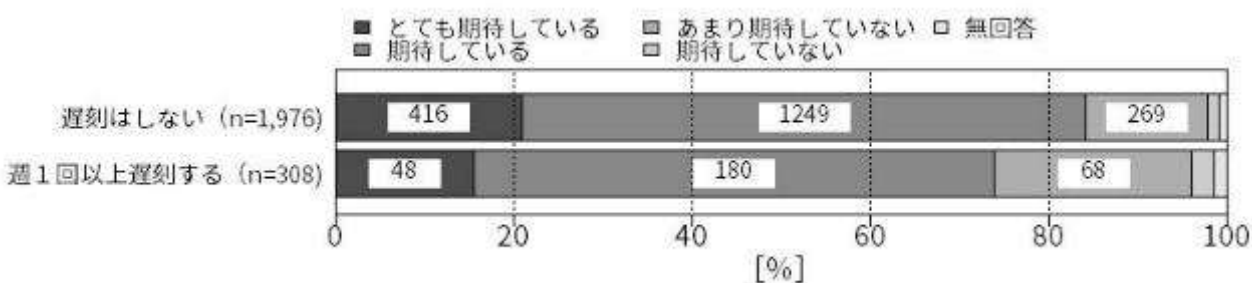
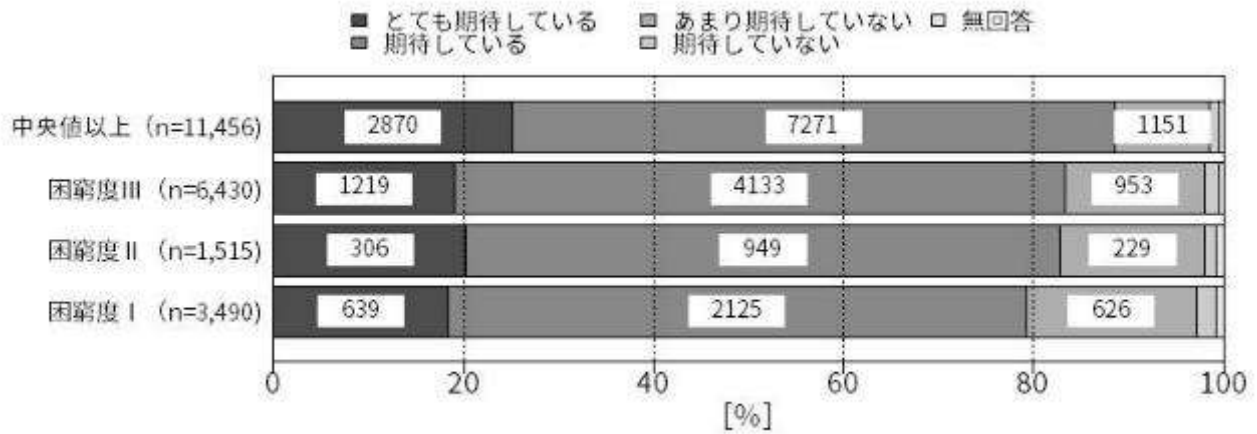


図 237. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は子どもの将来に「とても期待している」割合は、21.1%であった。「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、15.6%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
 （保護者票 問 14(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

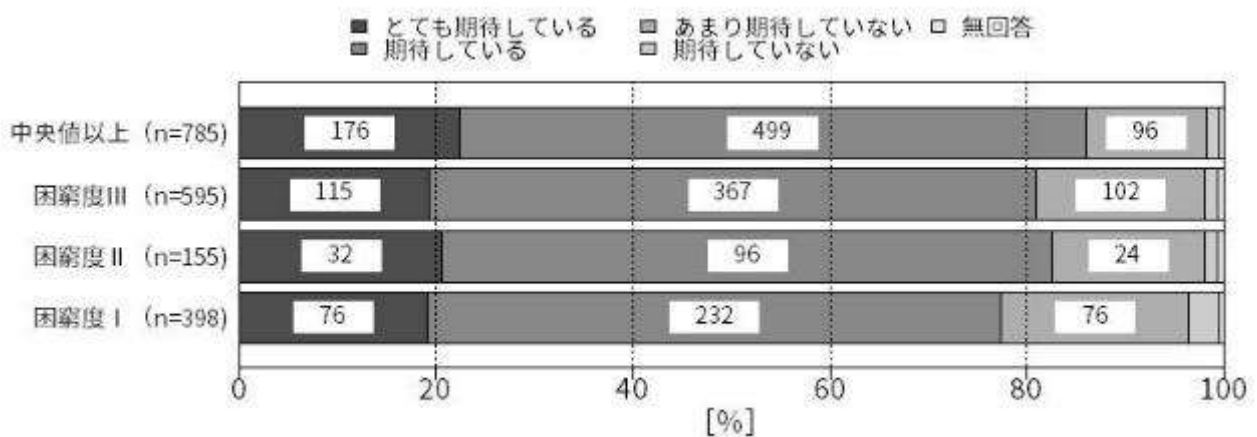
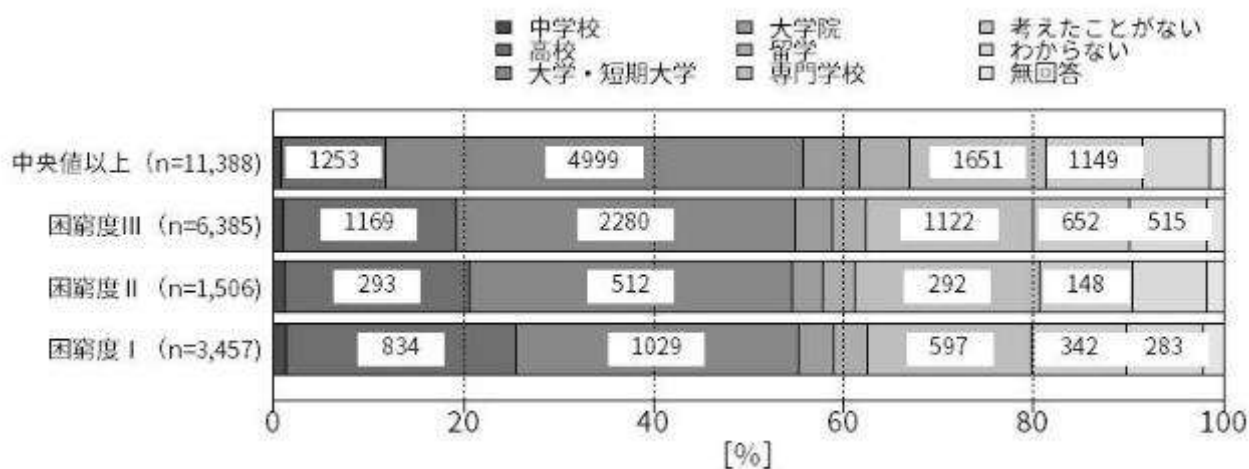


図 238. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「あまり期待していない」「期待していない」が増えている傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「あまり期待していない」「期待していない」を合計すると 22.1%であった。

困窮度別に見た、希望する進学先（子ども票 問27）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

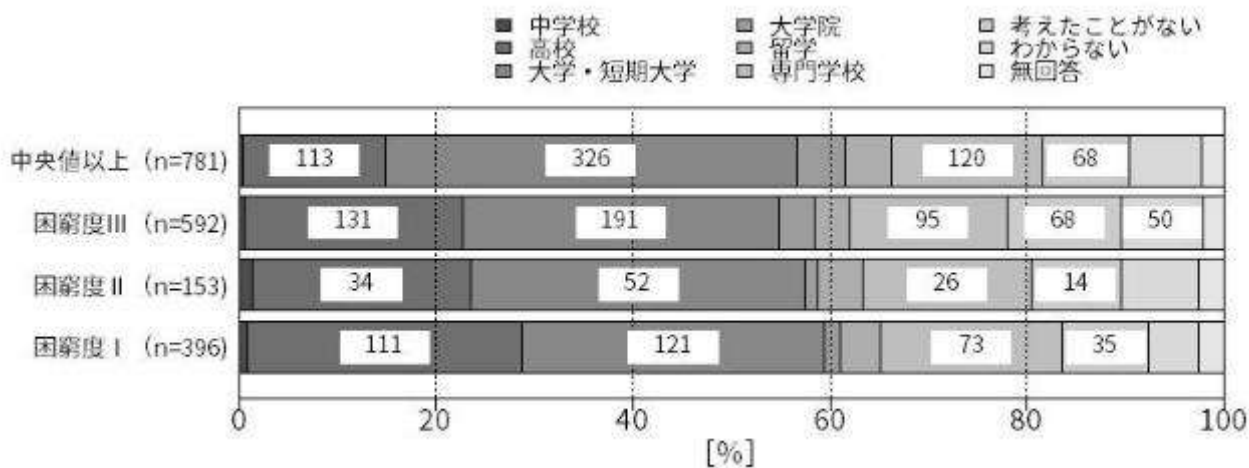
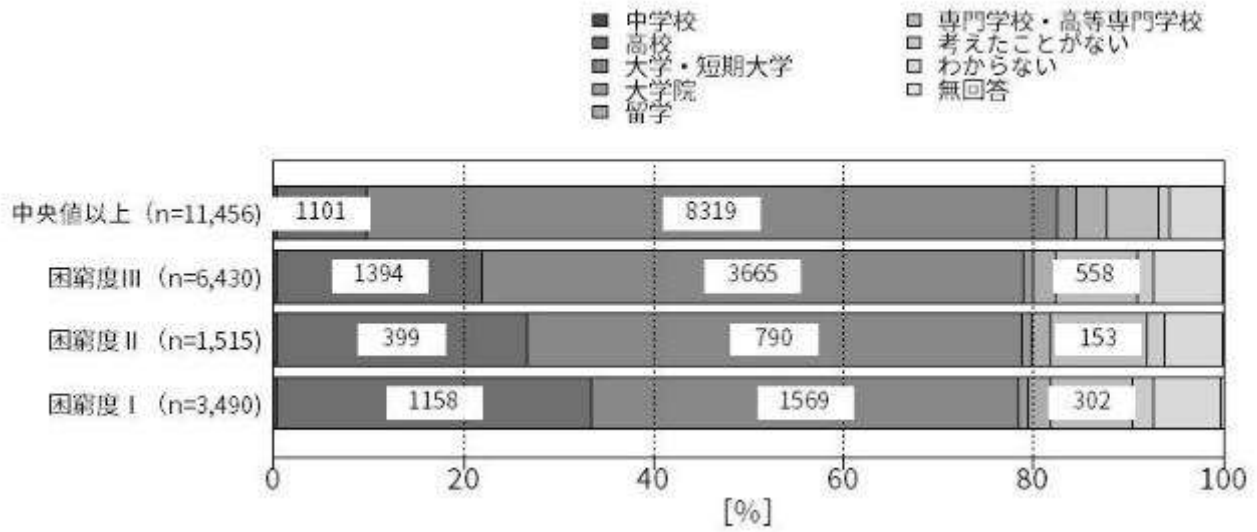


図 239. 困窮度別に見た、希望する進学先

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度が高まるにつれ、高校卒業までの割合と「専門学校」と回答した子どもの割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「中学校」「高校」と回答した子どもは合計 28.8%、「専門学校」と回答した子どもは 18.4%であった。中央値以上群において「大学・短期大学」と回答した割合は、41.7%であった。

困窮度別に見た、子どもの進学予測（保護者票 問15）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

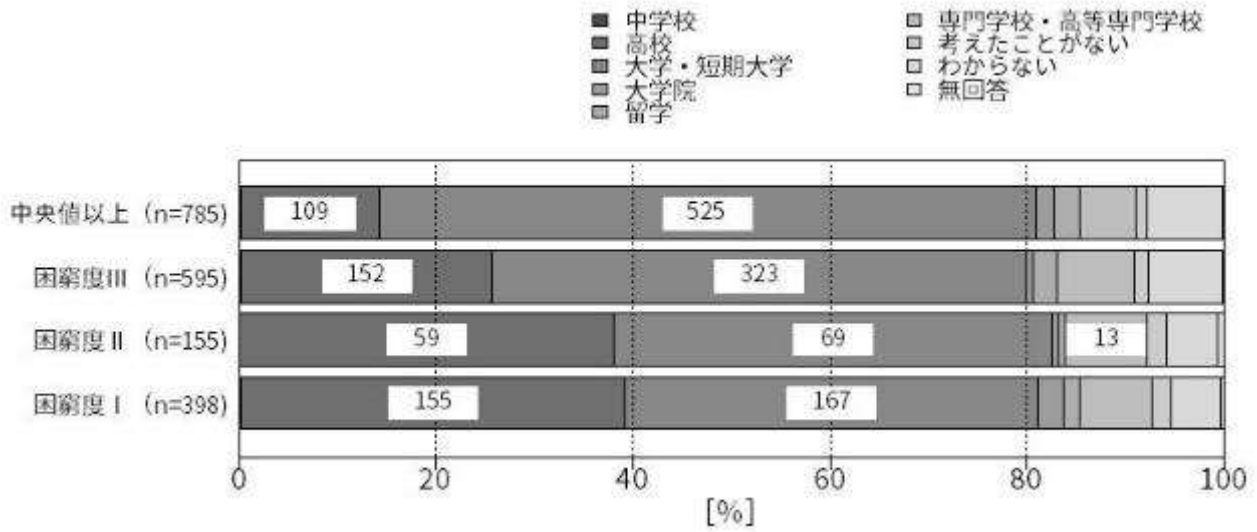
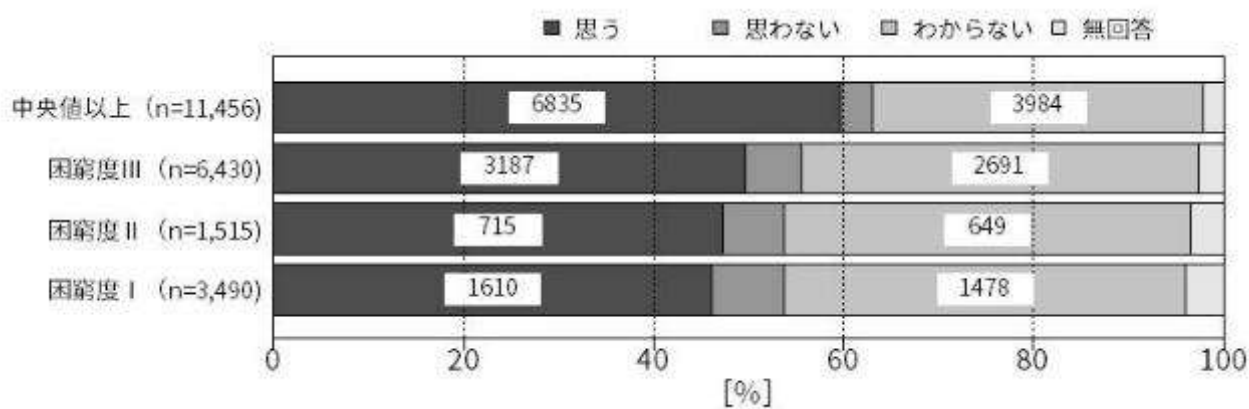


図 240. 困窮度別に見た、子どもの進学予測

困窮度別に子どもの進学予測（保護者による）を見ると、困窮度が高まるにつれ、高校卒業までの割合と「専門学校」と回答した子どもの割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「中学校」「高校」と回答した人は合計 39.2%、「専門学校」と回答した人は 7.3%であった。中央値以上群において「大学・短期大学」と回答した割合は、66.9%であった。

困窮度別に見た、子どもの進学達成予測（保護者票 問 16）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

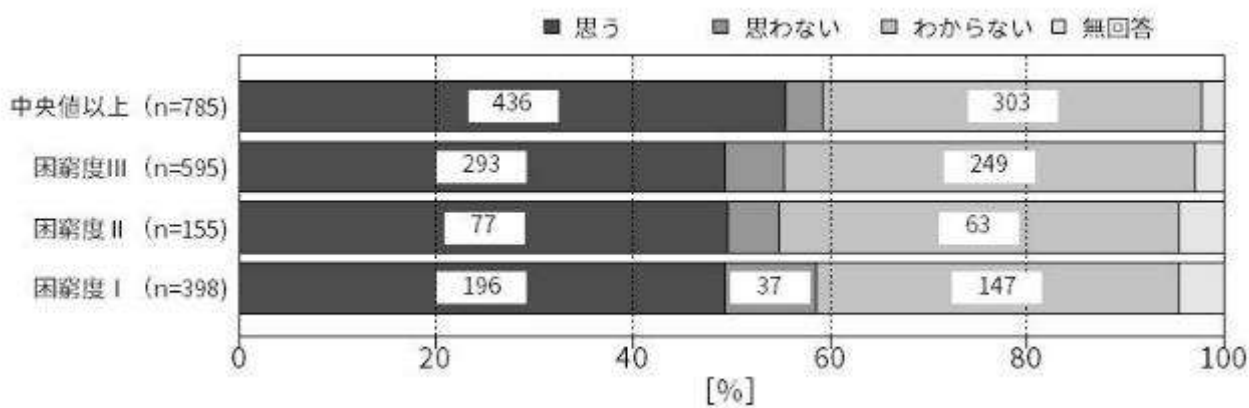
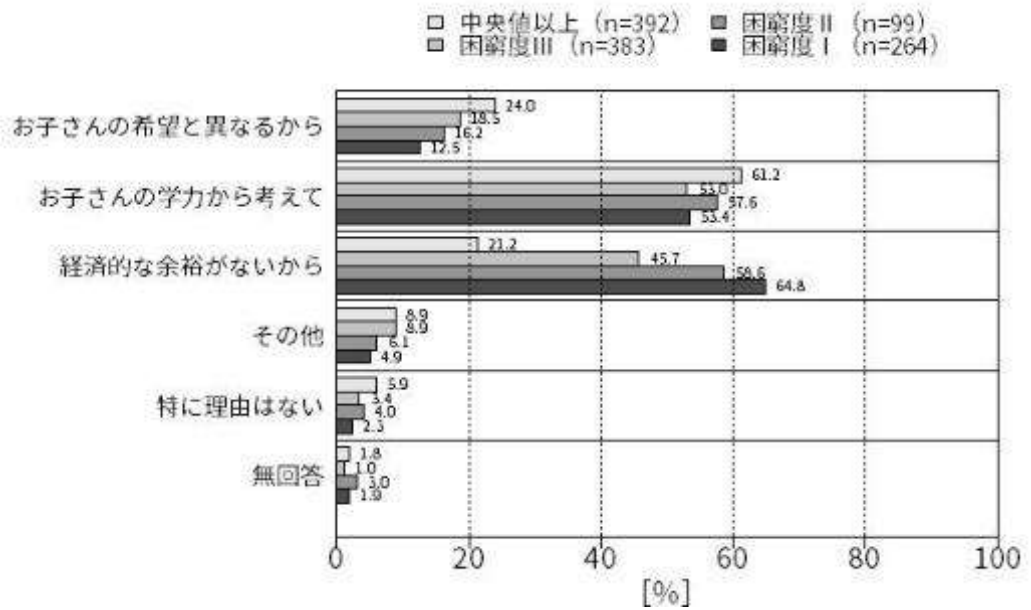


図 241. 困窮度別に見た、子どもの進学達成予測

困窮度別に子どもの進学達成予測（保護者による）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「思う」と回答した保護者の割合が低くなっている。

困窮度別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由（保護者票 問17）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

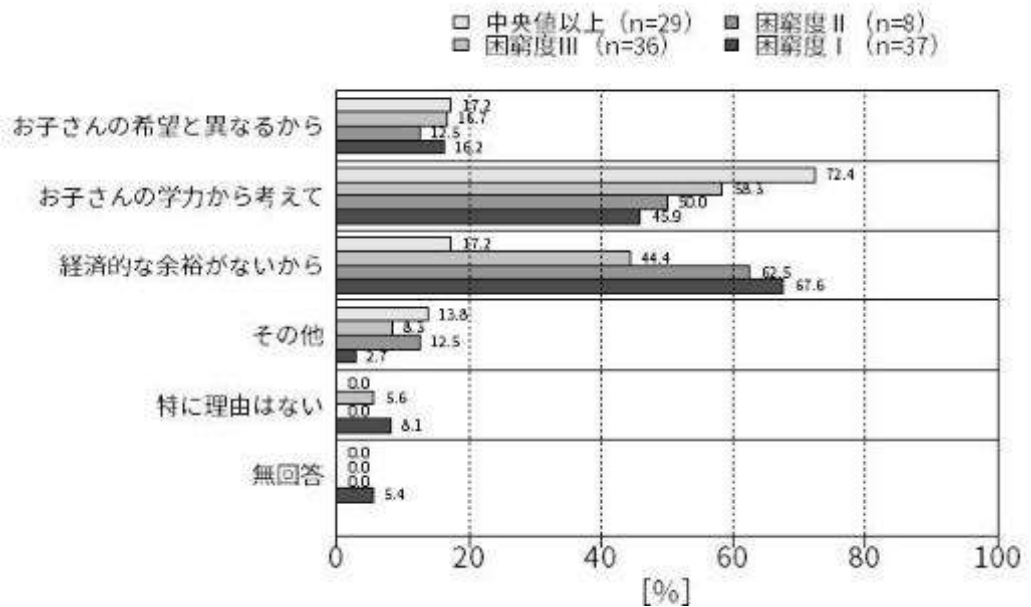
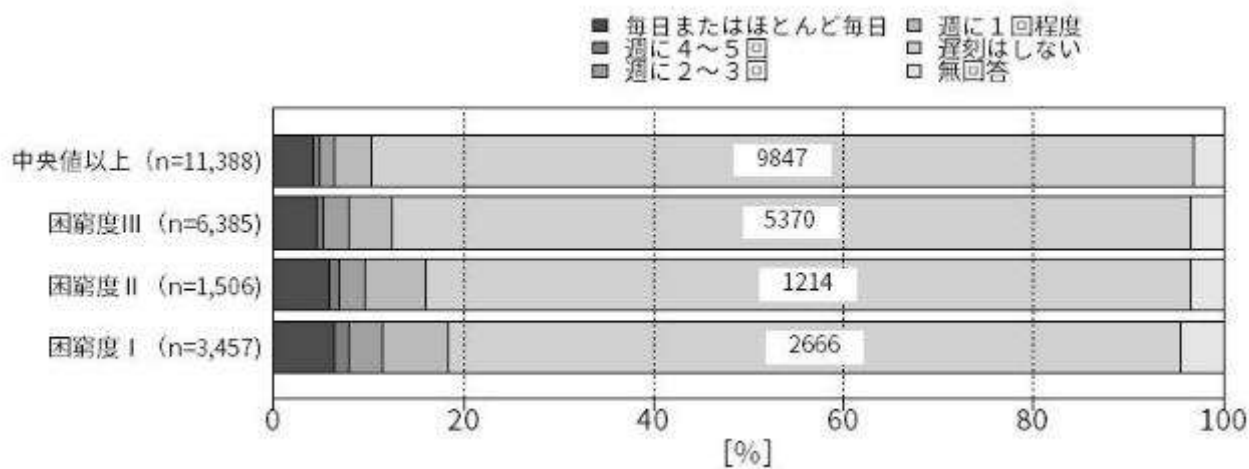


図 242. 困窮度別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由

困窮度別に子どもの進学達成「思わない」理由（保護者による）を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群とで差が大きいのは「経済的な余裕がないから」である。困窮度 I 群において「経済的な余裕がないから」と回答した人は 67.6%であった。

困窮度別に見た、学校への遅刻（子ども票 問9）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

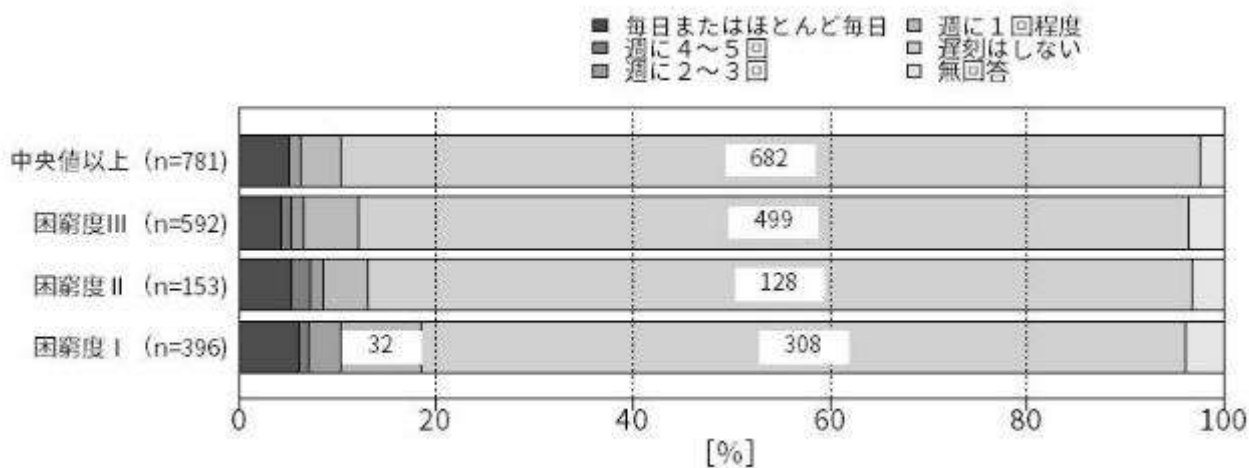
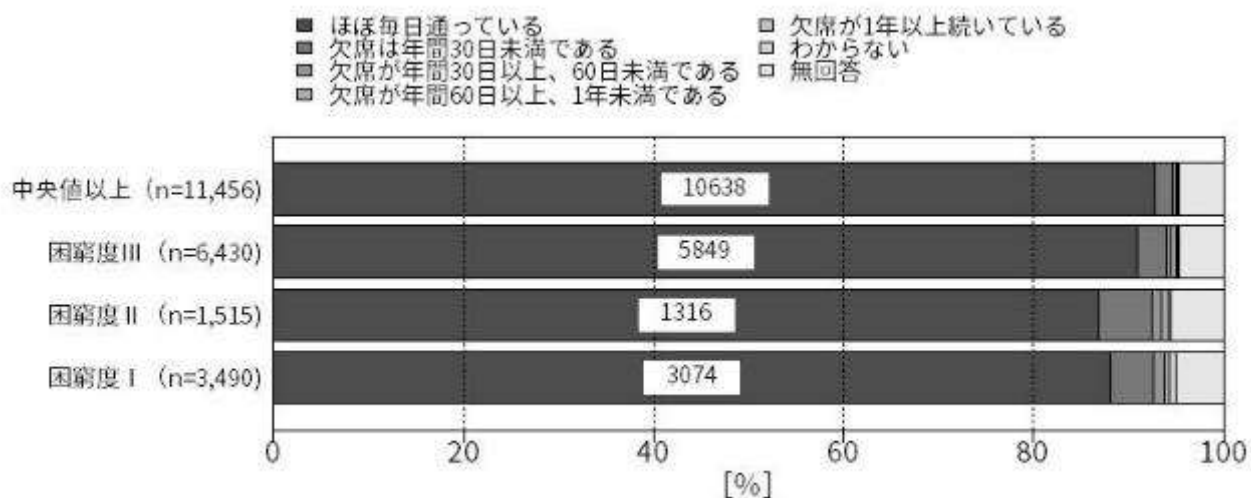


図 243. 困窮度別に見た、学校への遅刻

困窮度別に学校への遅刻を見ると、困窮度が高まるにつれ、週に1回以上遅刻をする子どもの割合が増える傾向にある。困窮度I群では、週に1回以上遅刻をする割合は18.4%であった。

困窮度別に見た、子どもの通学状況（保護者票 問 21）

<大阪市 24 区>



<大阪市平野区>

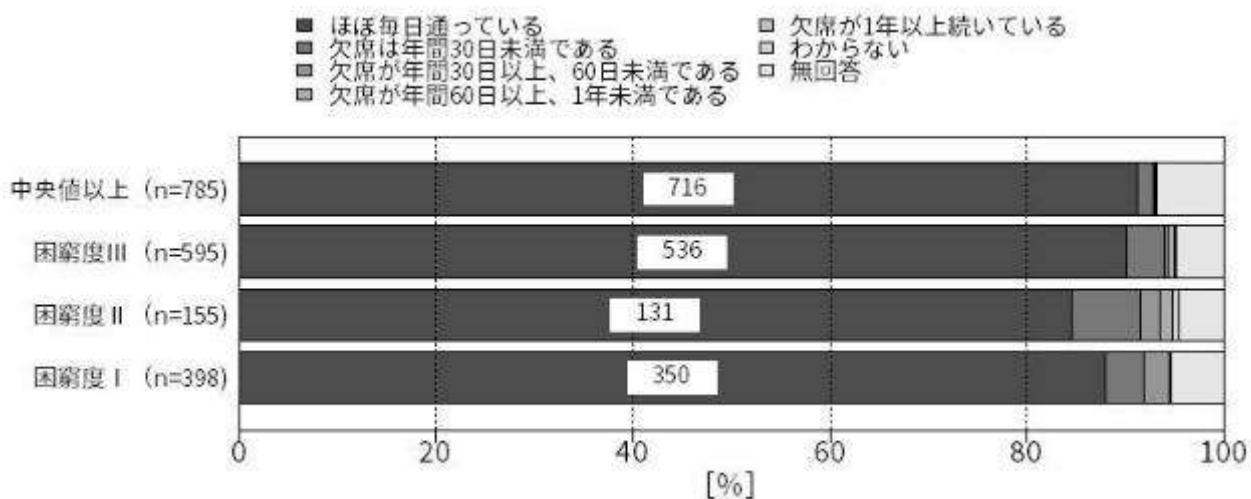
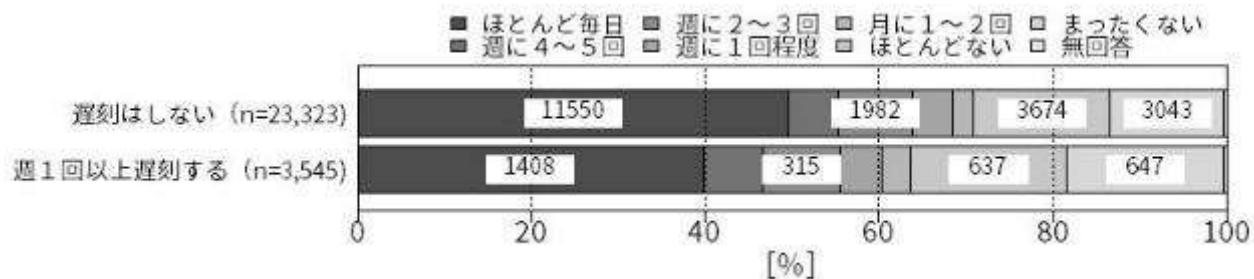


図 244. 困窮度別に見た、子どもの通学状況

困窮度別に子どもの通学状況を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群では、年間30日以上欠席している割合はそれぞれ、0.4%、2.8%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と朝食を食べるか) (子ども票 問9 × 子ども票 問10①)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

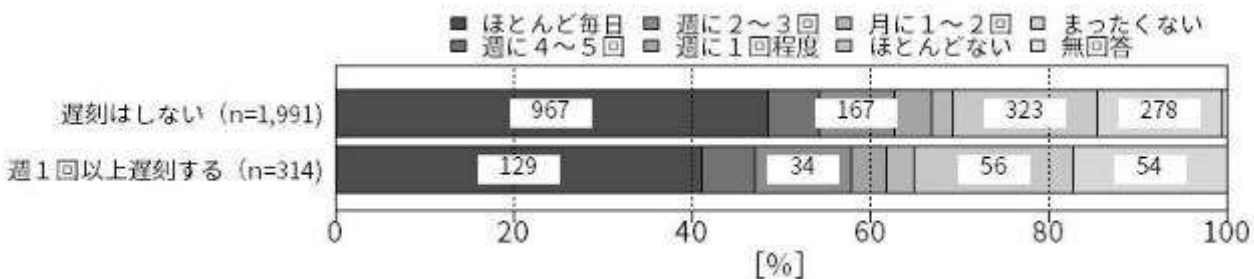


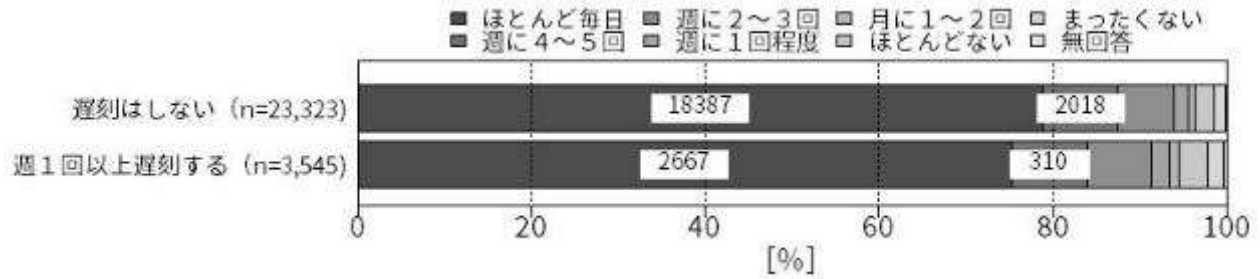
図 245. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と朝食を食べるか)

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり (おうちの大人と朝食を食べるか) を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「ほとんど毎日」と回答した割合が41.1%であった。また、「ほとんどない」「まったくない」と回答した割合が高く、合計すると35.0%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と夕食を食べるか) (子ども票 問9 × 子ども票 問10②)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

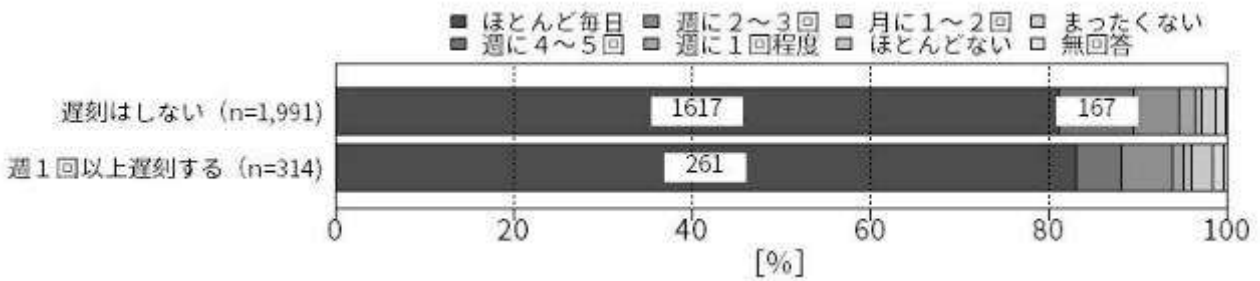


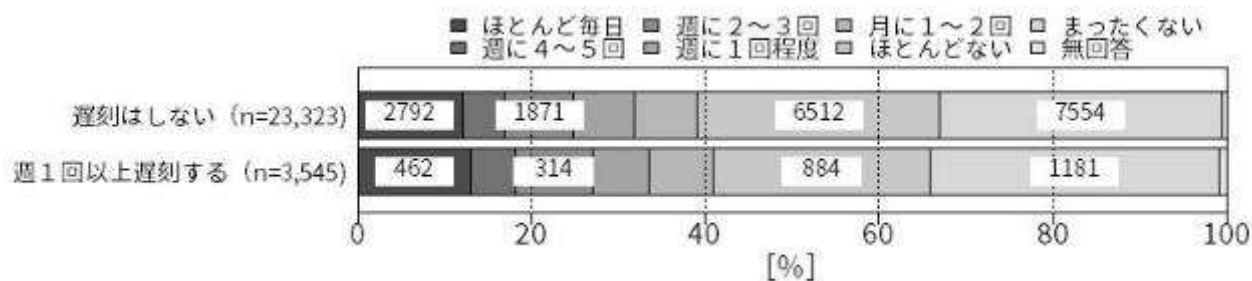
図 246. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と夕食を食べるか)

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「ほとんど毎日」と回答した割合が83.1%であった。また、「ほとんどない」「まったくない」と回答した割合が高く、合計すると3.5%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人に宿題をみてもらうか) (子ども票 問9 × 子ども票 問10⑤)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>

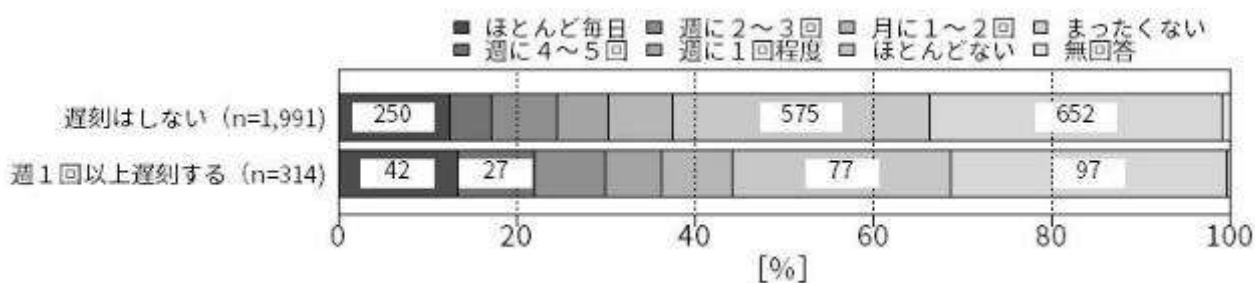


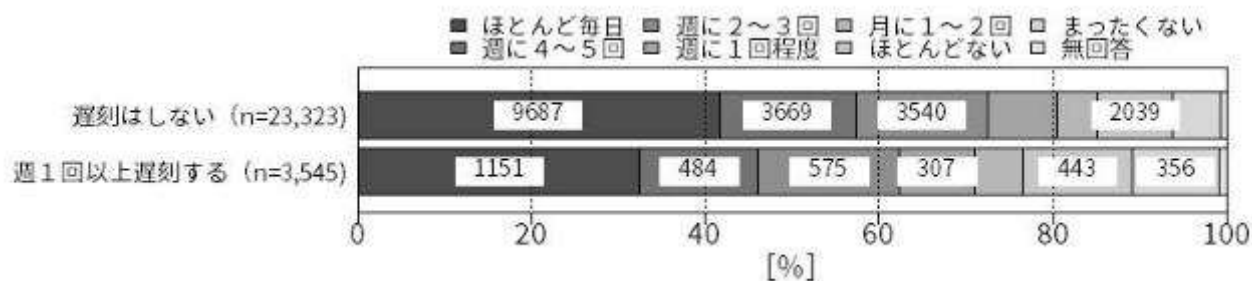
図 247. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人に宿題をみてもらうか)

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「ほとんどない」「まったくない」と回答した割合は合計すると55.4%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と学校の話をするか) (子ども票 問9 × 子ども票 問10⑥)

<大阪市24区>



<大阪市平野区>



図 248. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と学校の話をするか)

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり(おうちの大人と学校の話をするか)を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「ほとんどない」「まったくない」と回答した割合は合計すると22.3%であった。